

大項目	中項目	小項目	計画事業			
			事業番号	事業名		
3 コミュニティ・産業・文化	3-3 生涯学習	生涯学習機会	1	大学連携推進協議会の検討		
			2	生涯学習一日体験フェア		
			3	生涯学習支援者の育成・活用		
			4	大学・企業等との協働の推進		
	5		文京アカデミア講座（生涯学習講座）			
		生涯学習情報	6	生涯学習情報の一元化及び相談拠点の整備		
				生涯学習一日体験フェア	【再掲】	
				文京アカデミア講座（生涯学習講座）	【再掲】	
		講座・発表の場		生涯学習一日体験フェア	【再掲】	
				生涯学習支援者の育成・活用 大学・企業等との協働の推進 文京アカデミア講座（生涯学習講座）	【再掲】	
		図書館機能の充実	7	図書館資料へのICタグ整備		
			8	図書館ホームページの拡充		
		3-4 文化振興	歴史・文化情報	16	映像資料の調査・保存事業	
				17	（仮称）森鷗外記念館の整備 生涯学習支援者の育成・活用	【再掲】
			伝統工芸・伝統文化		文京区技能名匠者認定事業 シビックホールでの文化芸術振興事業の実施	【再掲】
		文化・芸術活動	18	アウトリーチ事業の実施		
			19	シビックホールでの文化芸術振興事業の実施		
			20	文化祭/各種発表会/若手芸術家支援		
		3-5 スポーツ 振興	スポーツ施設	10	スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	
				11	スポーツ団体等協働事業	
				12	旧第五中学校体育館の整備	
				13	（仮称）新総合体育館の整備	
		14		2013年東京国体開催準備		
		指導者育成	15	スポーツ指導者の育成と活用 スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	【再掲】	
		観るスポーツ		スポーツ団体等協働事業 2013年東京国体開催準備	【再掲】	
		スポーツ技能		スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進	【再掲】	
				スポーツ指導者の育成と活用	【再掲】	
		3-6 観光	観光情報	21	観光リーフレット作成助成	
				22	案内標識等統一化計画の策定及びモデル地区整備 フィルムコミッションによる観光振興	【再掲】
	観光資源			観光拠点の整備		
			24	観光土産品開発支援事業 （仮称）森鷗外記念館の整備	【再掲】	
	おもてなしの心	25	観光ガイド事業の充実 案内標識等統一化計画の策定及びモデル地区整備 フィルムコミッションによる観光振興	【再掲】		
	協力・連携	26	五大まつり等の助成			
	3-7 交流	交流情報	27	国際理解推進事業 外国人参加型交流事業	【再掲】	
		国内外の交流	28	山村体験交流事業協办 海外都市との交流事業		
		在住外国人支援		わかりやすいホームページの構築	【再掲】	
		外国人の参画	29	外国人参加型交流事業		

# I 基本構想の意義

## 1 基本構想の目的・役割・期間

基本構想は、文京区における総合的かつ計画的な行政運営指針で、行政計画の最上位に位置付けられるものです。施策の優先順位や有機的な連関性を担保するため、基本構想のもとに各分野で行政計画を策定し、施策を遂行しています。（図-1 参照）

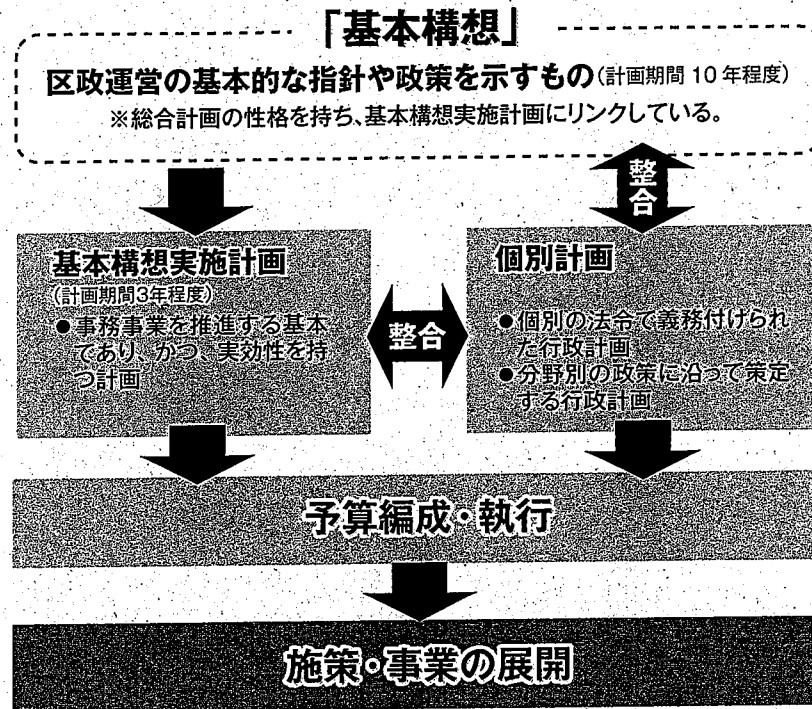


図-1 基本構想の位置付け

### ※ 基本構想と「文の京」自治基本条例

基本構想は、区の進むべき都市像を明らかにし、区の政策の大綱を総合的に示すものです。

一方、平成17年4月から施行されている「文の京」自治基本条例は、区民、区民等、各主体などを定義し、区民等の権利及び責務、区の責務、協働・協治の推進などを規定しています。

なお、この基本構想では、区民などの定義については、「文の京」自治基本条例に基づき、次のとおりとします。

区民・・・区内に住む人、働く人及び学ぶ人をいいます。

区民等・・・区民、地域活動団体、非営利活動団体及び事業者をいいます。

各主体・・・区民、地域活動団体、非営利活動団体、事業者及び区のそれぞれをいいます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	1	事業名	大学連携推進協議会の検討
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	区内に多くの大学が存在するという特長を活かし、区と区内大学とが様々な分野において相互に連携・協力することにより、文京区の魅力を高め、地域社会の活性化を図ります。		
手段	区内大学学長懇談会及び実務担当者による会合を開催し、大学連携推進協議会発足の可能性や、地域連携、大学連携をより一層推進していくための方策等の検討を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大学学長懇談会開催回数	回	1	1	1	100%	1	1	100%	1
実務担当者会議開催回数	回	2	3	3	100%	3	2	67%	3

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	0	373	212	328	226	315
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	0	373	212	328	226	315
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	2,128	2,442	2,281	2,371	2,269	2,375

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】	区と区内大学・短期大学及び大学間の連携を一層進めていくために、各大学の事務担当者が出席する「地域連携担当者会議」を7月と10月に開催し、区と大学との連携した取り組み事例の報告や大学施設開放のアンケート調査、意見・要望の交換などを行い、一定の成果が得られました。また、1月に区内大学学長懇談会を開催し、「大学が考える地域貢献」を議題として、大学連携の一層の推進に向けた意見交換を行うことができました。	地域連携担当者会議を7月、10月、2月に開催し、連携についての報告等を行いました。また、東日本大震災を踏まえた、震災時の相互協力等に関するアンケート調査を行い、今後の相互協力について検討しました。区内大学学長懇談会を1月に開催し、「大規模災害における区と区内大学との相互協力について」を議題として、意見交換を行いました。	地域連携担当者会議を7月、12月に開催し、大学との連携事業の報告や、今後の連携に向けた要望等について、区と各大学の担当者間で相互に意見を交わしました。また、1月に区内大学学長懇談会を開催し、「区内大学と区との相互協力及び大学における地域交流について」をテーマに、各々の大学の見解を共有しました。
【課題】	各大学とも、地域連携・地域貢献の必要性は認めているところではありますが、大学ごとに、連携の体制づくりや取り組み状況等に温度差があり、連携に対する共通の認識を持つまでに至っていない状況にあります。	各大学の規模や学内連携体制に相違があるため、連携協議会の発足に向け、連携担当者会議においてさらに検討を進めていく必要があります。	区では13の大学と相互の協定を締結し、様々な連携事業を行っています。今後、更に多くの大学と連携を進めるとともに、協定を活かし特色ある連携事業を行っていく必要があります。また、大学ごとに取り組み状況や意識等に差があり、連携に対する共通の認識を持てる状況をつくるとともに、大学に関する庁内での体制の整備が必要である。
指標達成度	23年度	24年度	25年度
	A	A	B

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの取組及び2 区民参画の状況	

6 今後の方向性	
時点	方向性
23年6月末	現状維持
24年6月末	現状維持
25年5月末	現状維持

① 事業の展開内容  
年1回の区内大学学長懇談会、年3回程度の実務担当者による地域連携担当者会議を開催し、大学連携を一層推進していくための方策等を検討していきます。

② 予算の増減内訳  
(事業超勤の減13千円→職員給与費に計上)

③ 所要人員の考え方  
学長懇談会、地域連携担当者会議の開催、個別の連携事業の打合せ等  
1人×4H×3日×40週=480H 480H÷1744H≒0.3人

④ 現状維持の理由  
大学連携推進協議会の発足に向け、大学との連携事業をより一層推進していくために、引き続き検討を行っていく必要があります。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	2	事業名	生涯学習一日体験フェア
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	区民の生涯学習活動への参加を促すため、学習相談、学習情報の提供、活動成果の発表の場として生涯学習一日体験フェアを実施し、「学び」との出会いを支援します。		
手段	文京アカデミア講座の企画協力団体等が一堂に集い、講座の内容紹介、サークルの活動発表、学習相談などを行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度		23年度		24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
体験フェア参加大学・団体数	団体	50	55	78	142%	60	73	122%	65
体験フェア来場者数	人	818	1,100	1,026	93%	1,200	1,293	108%	1,300

3 コスト							
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度	
	実績	予算	実績	予算	実績	予算	
事業費 A	232	320	320	320	320	320	
特定財源	0	0	0	0	0	0	
一般財源	232	320	320	320	320	320	
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868	
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030	
総経費 E=A+D	1,296	1,354	1,354	1,341	1,341	1,350	

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】	平成20年度後期以来、年2回開催しているが、参加希望団体、来場者共に増加し、平成23年3月実施時には参加者・来場者を併せて500人を超え、広く区内の生涯学習事業を紹介することができました。また、企画・出展者の調整・設営計画及び当日の運営を生涯学習支援者有志により構成された「文京アカデミア生涯学習一日体験フェア実行委員会」と協働で行うことにより、生涯学習支援者に活動の場を提供しました。	参加団体、協力団体は回を重ねるにつれ増加し、生涯学習講座の紹介やサークル活動の成果発表の場としての役割を果たしており、来場者からのアンケートなどでは概ね好評を得ています。さらに、実行委員の人数も増加し、生涯学習支援者の活動の場としても有効に機能しています。	参加団体や協力団体数は安定し、来場者は増加傾向で生涯学習講座の紹介やサークル活動の成果発表の場として定着してきました。また、来場者アンケートでは概ね好評を得ています。さらに実行委員会との協働による開催も回数を重ね、準備・運営などがスムーズに進むようになってきました。
【課題】	会場の利用方法や運営方法などには改善すべきところがあるため、協働する実行委員と共に検討しながら改善していく必要があります。また、生涯学習一日体験フェアについて、より多くの区民に周知し、参加者・来場者ともに増加を図る必要があります。	22年度後半から1階展示室も会場として使用していますが23年度の来場者数は伸び悩みました。23年度は天候に恵まれなかったこともありますが、広報ツールを増やしたり、より効果的な周知方法を検討していくことで来場者の増加を図る必要があります。	事業内容については好評を得ていますが、さらに効果的なPRを望む声があり、広報の方法などを検討していく必要があります。開催日程の増を望む声もありますが、実行委員の体制や出展者等の調整など増加の可否について検討することが必要です。
指標達成度	23年度	24年度	25年度
	A	B	A

5 ①事務事業に関する区民参画・ニーズの強化及び②区民参画の状況	
①	「さまざまなサークルの活動を知ることができた。回を重ねることに充実してきている。もっと沢山の展示が見たい。開催日数の増加を。さらに効果的にPRを。など（来場者アンケートより）」 会のPRに役立った。雰囲気や和やかで良かった。時間が短い。など（出展出演者アンケートより）
②	企画・出演者調整・設営計画及び当日運営を生涯学習支援者有志で構成された「文京アカデミア生涯学習一日体験フェア実行委員会」と協働で行っています。（6回目）

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	事業内容は概ね現状を基本とし、コストは現状維持しつつ、効果的なPRにより来場者の増加を図っていきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 増減なし
		③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人
25年5月末	現状維持	④ 現状維持の理由 来場者、出展出演者、実行委員などから概ね好評を得ているため。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	3	事業名	生涯学習支援者の育成・活用
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	「文の京生涯学習司」、「文の京地域文化インタープリター」等の本区独自の資格取得者や、区民の講座運営を支援する「文京アカデミアサポーター」など、生涯学習支援者を育成・活用し、地域における生涯学習活動の活性化や区民の主体的な学習や活動を支援します。		
手段	「学習司」、「インタープリター」、「サポーター」などの人材を育成する講座や育成した人材が一層スキルを高める講座を実施するとともに、育成した人材が連携を深めるための場を設けたり、活躍できる場を充実していきます。		

2 事業の指標											
指標名	単位	22年度			23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画		
「学習司」認定者数	人	24	0	0	0%	30	15	50%	0		
「インタープリター」初級認定者数	人	0	30	17	57%	0	0		0		
「サポーター」登録者数	人	16	20	18	90%	20	20	100%	20		
学習司スキルアップ講座開催回数	回	0	1	1	100%	0	0		1		
学習支援者スキルアップ講座開催回数	回	1	3	2	67%	3	2	67%	3		
学習支援者連絡会	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2		
特別公開講座開催回数（人材育成）	回	1	1	1	100%	0	0		0		

3 コスト							
単位：千円	22年度		23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算	
事業費 A	1,502	2,080	1,862	1,142	1,035	816	
特定財源	0	0	0	0	0	0	
一般財源	1,502	2,080	1,862	1,142	1,035	816	
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868	
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030	
総経費 E=A+D	2,566	3,114	2,896	2,163	2,056	1,846	

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】	「学習司」は平成18年度から養成講座を開講し、22年度までに132名が認定されました。「インタープリター」は平成18・19・21年度に初級講座を開講し、22年度までに初級認定者が65名となったほか、初級認定者を対象に中級や演習講座を実施しました。「サポーター」は平成18年度から養成講座を開講し、22年度までの登録者は93名です。	【成果】	「学習司」は既認定者対象のスキルアップ講座を実施しました。「インタープリター」は新たに17名を初級認定し、認定者数は82名となりました。また、初・中級認定者対象の上級講座を実施しました。「サポーター」は新たに18名が登録し、登録者数は108名となりました。活動の場は、講座企画・運営、一日体験フェア、企画展や講座のサポート等を行いました。	【成果】	「学習司」は養成講座（6期）修了15名を加え延認定者数は147名、「サポーター」は新登録者20名を加え延登録者数は127名となりました。このほか学習支援者を対象とするスキルアップ講座を行いました。活動の場は、企画展、講座、講演会、一日体験フェアの企画・運営を行いました。
【課題】	資格取得後の活動の場が不足しているという声があり、さらなる活動の場を作ることが必要です。また、育成した人材のスキルアップを図る機会の提供も必要です。	【課題】	資格取得後の活動の場の充実を望む声に応え、さらなる活動の場を作ることが求められます。併せて学習支援者スキルアップ講座の内容等を検討する必要があります。また、「インタープリター」は現行の養成メニューは予定どおり23年度をもって終了し、新たな方向性を検討することになっています。	【課題】	活動の場の充実や、育成した人材の一層のスキルアップを図る機会を拡充する必要があります。インタープリターは企画展の実施に主体的に携わり、今後、その知識や経験を区民に還元できる機会の活動が求められています。
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	B	B	

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2 区民参画の状況	
①	認定、登録された後のスキルアップの充実を望む声があります。（養成講座、スキルアップ講座受講生等）
②	育成した学習支援者との協働を進めることが、区民参画の推進につながっています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 活動機会や場の充実や、育成した人材のスキルアップの内容を充実を図っていきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 平成24年度1,142千円 平成25年度816千円 326千円減
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由 全体として現状コストの範囲内で、個々の事業の見直しや充実を図っていきます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	4	事業名	大学・企業等との協働の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	大学、企業や団体の施設・設備・人材を活用した講座の実施や、社会貢献事業の誘致により、より多くの区民が自分に合った「学び」を見つけるられるよう、講座等のメニューの充実を図ります。		
手段	大学の学習環境や高度かつ専門的な知的財産を活用するため、大学施設を使った大学キャンパス講座、大学学長の講演会（大学プロデュース特別公開講座）を実施します。また、企業や団体の社会貢献事業を積極的に誘致し、メセナ講座を実施します。		

2 事業の指標										
指標名	単位	23年度				24年度				25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	
大学キャンパス講座開催回数	回	23	27	26	96%	27	27	100%	27	
大学プロデュース特別公開講座開催回数	回	1	2	3	150%	2	2	100%	2	
メセナ講座開催回数	回	5	4	2	50%	4	1	25%	4	
大学キャンパス講座受講者数	人	699	810	689	85%	810	789	97%	810	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,239	1,314	1,381	1,580	1,034	1,920
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,239	1,314	1,381	1,580	1,034	1,920
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030
総経費 E=A+D	2,303	2,348	2,415	2,601	2,055	2,950

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 大学キャンパス講座の実施数は、平成20年度19講座、21年度21講座、22年度23講座と順調に講座数を増やしています。メセナ講座の実施回数が、21年度1講座から22年度5講座に増えました。	<b>【成果】</b> 大学キャンパス講座は、26講座と22年度からさらに実施数を増やし、目標をほぼ達成しています。他には大学プロデュース講座（学長講演会）を3回、メセナ講演会を2回実施しました。	<b>【成果】</b> 大学キャンパス講座は27講座実施し、受講者数はほぼ目標を達成しています。他に大学プロデュース特別公開講座（学長講演会）2回、メセナ講座1回を実施しました。	
<b>【課題】</b> 大学においては、より専門的な学習を担うことが期待されており、大学キャンパス講座では、各大学の特色や得意とする分野を活かした講座が求められています。また大学キャンパス講座を実施していない区内大学にも今後の実施を積極的に呼び掛け、さらにバリエーションに富んだメニューを実施していく必要があります。	<b>【課題】</b> 大学には専門的な学習を担うことが期待されていますが、専門的過ぎて受講生が定員割れすることもあるため、受講生ニーズの把握に一層留意して的確な企画を立てることが求められます。また、大学や企業等新たな協力先を開拓することも必要です。	<b>【課題】</b> 定員割れする講座は少なくなってきましたが、一層受講生ニーズを反映した企画が求められます。また、新たな協力先の開拓に努めることも必要です。	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	B	B

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2 区民参画の状況
① 続きの講座を希望します。あまり触れることのない切り口がよかった。昨年も〇〇大学で受講し、また受けたらと思った。等（受講生アンケート）

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	新たな協力先の開拓に取り組んでいきます。
		② 予算の増減内訳
		平成24年度1,580千円 平成25年度1,920千円 340千円増
24年6月末	拡充	③ 所要人員の考え方
		3/12月×2人×30%=0.15人
25年5月末	拡充	④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	5	事業名	文京アカデミア講座（生涯学習講座）
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミア推進計画		
所管	アカデミア推進部	アカデミア推進課	
目的	区民ニーズに合った生涯学習の機会を提供するため、魅力的な学習プログラムを用意し、時間や場所など、学習活動を行うにあたっての制約を除くための配慮と支援を行い、いつでも、どこでも、だれでも学習できる機会の充実を目指します。		
手段	地域、文学、歴史・社会、芸術、暮らし、語学、健康・スポーツなど、多様な分野について学ぶことができるよう、バラエティに富んだ「文京アカデミア講座（生涯学習講座）」を実施します。また、時間や場所を問わずに、パソコンから講座等の受講ができる「e-ラーニング講座」を配信します。		

2 事業の指標											
指標名	単位	22年度				23年度			24年度		25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画		
自主企画講座の実施回数	回	18	18	9	50%	18	18	100%	18		
民間教育機関企画講座の実施回数	回	33	30	33	110%	30	32	107%	30		
区民プロデュース講座の実施回数	回	15	15	10	67%	15	10	67%	15		
いきいきアカデミア講座の実施回数	回	1	1	1	100%	1	1	100%	1		
子どもアカデミア講座の実施回数	回	9	10	9	90%	12	12	100%	14		
e-ラーニング講座の実施回数	回	3	3	3	100%	3	3	100%	3		
個別テーマ(パソコン等)講座の実施回数	回	22	21	26	124%	21	31	148%	21		
アカデミア講座受講者数	人	1,655	1,735	1,391	80%	1,820	1,757	97%	1,900		

3 コスト							
単位：千円	22年度		23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算	
事業費 A	6,335	9,670	7,521	9,138	7,585	9,476	
特定財源	0	0	0	0	0	0	
一般財源	6,335	9,670	7,521	9,138	7,585	9,476	
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868	
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030	
総経費 E=A+D	7,399	10,704	8,555	10,159	8,606	10,506	

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度		25年度
<b>【成果】</b> 22年度は、特に区民の方から要望の高かったパソコン講座の回数を8回から12回に増やして実施しました。区民プロデュース講座（区民提案型講座）は、44件の応募企画から選定のうえ、15講座を実施しました。その他、民間教育機関企画講座、自主企画講座講座、いきいきアカデミア講座、夏休み子どもアカデミア講座、e-ラーニング講座など64講座を実施しました。	<b>【成果】</b> パソコン講座は23年度からさらに増やして16回実施しました。その他の講座の実施状況はほぼ横ばいですが、講座企画募集等の時期が震災直後であったためか、自主企画のうち生涯学習支援者からの提案企画と区民プロデュース講座の実施数が少なくなりました。講座受講生からのアンケートでは、大半の講座で満足度が80%を超えています。		<b>【成果】</b> パソコン講座はさらに回数を増やしました（22回）。また、自主企画講座や子どもアカデミア講座も実施数を増加しました。その他（魚おろし方教室、キャリアアップ講座）はほぼ横ばいです。受講生アンケートの満足度は大半の講座で80%を超えています。
<b>【課題】</b> 区民の様々なニーズに対応できるバラエティに富んだ講座の提供や、内容の一層の充実が求められています。また、開催時間の配慮など、参加しやすい仕組みづくりを行うことが必要です。	<b>【課題】</b> 一層バラエティに富んだ講座を実施することや区の政策課題も念頭に置いたテーマに関する講座を企画することが求められています。また、勤労者や子育て世代なども参加しやすいメニューも実施していますが一層充実することが求められています。		<b>【課題】</b> パソコン講座の需要は高い状況が続いていますが、会場確保の問題もあり今後検討が必要です。また、勤労者や子育て世代の需要にも応えていくことが求められます。
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	B	B

5 1 事務事業に関する区民ニーズの変化及び2 区民参画の状況
①内容の高度さや1講座の回数や時間などについて、高低両意見があります。ほとんどの講座で80%を超える満足度があり、90%を超えるものも多数ある状況で、概ね良好です。（受講生アンケート）
②文京アカデミアサポーターによる講座開催時のサポート、区民プロデュース講座（区民提案講座）、生涯学習司が企画運営する講座など、多様な区民参画を推進しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	パソコン講座増加の検討が必要ですが、サークルや個人等の施設利用との兼ね合いも考慮し、現状範囲内で受講生ニーズの反映を目指します。 ② 予算の増減内訳 平成24年度9,138千円 平成25年度9,476千円 338千円増
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人
25年5月末	現状維持	④ 現状維持の理由 サークルや個人等の施設利用を考慮すると、講座実施数の増加には限界があり、現状の範囲内で受講生ニーズの反映を目指します。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	6	事業名	生涯学習情報の一元化及び相談拠点の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		生涯学習
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	生涯学習に関する情報提供及び相談体制を整備することで、区民一人ひとりの学習や活動を支援し、一人ひとりの知識や意欲に応じた「学び」との出会いを支援します。		
手段	区、大学や生涯学習関係団体等のさまざまな学習情報を収集、整理、分類し、区民に情報提供できるように情報コーナーを設置します。また、区民が気軽に相談できる体制を整備します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
学習相談員用講座開催回数	回	—	0	0		1	0		1
学習相談員の配置	人	—	0	0		0	0		1
情報コーナーの設置	か所	—	0	0		0	0		1
スクエアの発行	回	12	12	12	100%	12	12	100%	12
講座案内の発行	回	4	4	4	100%	4	4	100%	4

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	11,560	12,260	12,260	11,987	11,987	11,987
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	11,560	12,260	12,260	11,987	11,987	11,987
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030
総経費 E=A+D	12,624	13,294	13,294	13,008	13,008	13,017

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> さまざまな主体の学習や学習活動に関する情報を収集し、広報誌（区報、スクエア）、ホームページなどを通じて情報提供してきました。また、区民プロデュース講座の企画者の講座企画提案のための相談を受けるとともに、生涯学習一日体験フェアでは、学習相談コーナーを設け、情報提供や相談を行いました。	<b>【成果】</b> 多様な生涯学習活動に関する情報を収集し、広報誌（区報、スクエア、講座案内）、ホームページなどを通じて情報提供してきました。また、区民プロデュース講座の企画者の講座企画提案のための相談を受けるとともに、生涯学習一日体験フェアでは、学習相談コーナーを設け、情報提供や相談を行いました。	<b>【成果】</b> 生涯学習の活動について幅広く情報を収集し、広報誌（区報、スクエア、講座案内など）、ホームページなどを通じて情報提供してきました。また、区民プロデュース講座の企画者の講座企画提案のための相談を受けるとともに、生涯学習一日体験フェアでは、学習相談コーナーを設け、情報提供や相談を行いました。	
<b>【課題】</b> 区民が、いつでも、どこでも生涯学習に参加できるようにするには、より有効な情報を手軽に得ることができる必要があります。また、情報提供に加え、気軽に相談できる場があることも重要です。	<b>【課題】</b> 区民が、いつでも、どこでも生涯学習に参加できるように支援するため、情報提供に関する環境をさらに充実させるとともに、区民が気軽に相談できる場の整備が必要です。	<b>【課題】</b> 区民が、いつでも、どこでも生涯学習に参加できるように、情報提供に関する環境をより充実させる必要があります。また、情報提供に加えて、生涯学習について、区民が気軽に相談できる場や体制を整備していくことも必要です。	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	A	B

5 ①事務事業に関する区民意識・ニーズの変化及び②区民務画の状況
①平成22年1月に実施した「文京区アカデミー推進計画基礎調査」では、生涯学習に取り組んでいない理由として「十分な情報が得られないから」と答えた方が、男性60歳代と女性20歳代で3割を超えています。また、「学習や活動について気軽に相談できる窓口を充実すること」が女性50歳代で2.5%の方が挙げています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	情報収集体制及び学習相談拠点の整備に向けた具体的な検討を行います。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 増減なし
25年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由



# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	7	事業名	図書館資料へのICタグ整備
基本構想上の位置付け	【大項目】	【中項目】	【小項目】
	コミュニティ・産業・文化	生涯学習	図書館機能の充実
個別計画	文京区第4次電子自治体推進プラン、(文京区アカデミー推進計画)		
所管	教育推進部	真砂中央図書館	
目的	図書館資料についてICタグによる管理を行い、業務の省力化と利用者へのサービスの向上を図ります。		
手段	図書館資料にICタグを貼付し、従来のバーコード管理方式からICタグ管理方式へと移行するとともに、自動貸出機、自動返却機、セキュリティーゲート等の設置を行います。		

2 取組状況	
22年度	
23年度	ICタグ導入に向けて、必要な調査及び情報収集を行いました。
24年度	ICタグ導入に向けて、先進自治体等の調査や情報収集を行うとともに、費用対効果の検討を行いました。

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		0	0	0		
特定財源		0	0	0		
一般財源		0	0	0		
所要人員 B		0.02	0.00	0.02	0.00	0.02
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	138	0	136	0	137
総経費 E=A+D		138		136		

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】		【成果】 調査等を踏まえ、導入に向けたイメージを描き、準備を進めています。	【成果】 調査等を踏まえ導入に向けて検討をしたが、得られる効果に対して費用が大きく、早期の導入はむずかしい。
【課題】		【課題】 導入時における初期経費や次年度以降の費用対効果が課題となります。また、現在の図書館システムからのスムーズな移行に配慮する必要があります。	【課題】 図書館は8館3室あり導入経費や施設の改修、システム改修、運営経費負担が大きいことが課題となります。また、現行システムからのスムーズな移行に配慮する必要があります。
達成度	23年度	24年度	25年度
		B	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 これからの図書館あり方を検討する中で引き続き費用対効果などの課題の検討を進めます。
		② 予算の増減内訳
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方
		④ 現状維持の理由
25年5月末	現状維持	引続き導入について検討を行っていくためです。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	8	事業名	図書館ホームページの拡充
基本構想上の位置付け	【大項目】	【中項目】	【小項目】
	コミュニティ・産業・文化	生涯学習	図書館機能の充実
個別計画	文京区子ども読書活動推進計画、(文京区アカデミー推進計画)		
所管	教育推進部	真砂中央図書館	
目的	図書館ホームページにおいて、子ども・中高生向けのコンテンツを新規作成し、読書活動を支援します。		
手段	図書館ホームページを専門事業者に委託し、子どもページやYA(ヤングアダルト)ページを公開し、多彩なメニューを増やします。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度		24年度			25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
ホームページコンテンツ作成の進捗度	%		80	100	125%	90			100

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		4,636	4,589	0	0	
特定財源		0	0	0	0	
一般財源		4,636	4,589	0	0	
所要人員 B		0.30	0.30	0.00	0.00	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	2,069	2,069	0	0	0
総経費 E=A+D		6,705	6,658	0	0	

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
【成果】	【成果】 計画していたコンテンツは利用者が見やすいように拡充を図りました。これにより読書活動への支援を充実させることができました。	【成果】	
【課題】	【課題】 コンテンツの新規拡充は終了しましたが、継続的に、コンテンツの追加や更新を行い、情報の充実、魅力あるホームページ作りに引き続き取り組む必要があります。	【課題】	
指標達成度		23年度	24年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
24年6月末	終了確定	③ 所要人員の考え方
25年5月末	終了確定	④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要		
事業番号	9	事業名 ともひろば（校庭開放）の自主運営委員会化の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】	【中項目】
	子育て・教育	子育て支援
個別計画	子育て支援計画（次世代育成支援行動計画）	
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課
目的	地域における児童の安全な遊び場の確保並びに児童の健全育成及び余暇指導を目的として、区立小学校の校庭を開放するともひろばについて、地域の実情に沿った柔軟な運営を行います。 ※子育て支援計画に基づき、平成23年度より順次児童青少年課所管の「文京区放課後全児童向け事業」への移行されているため、状況を注視しつつ、ともひろばについては、現状を維持していきます。	
手段	学校休業日に区立小学校の校庭を開放しています。 開放時に指導員を配置し、遊びやスポーツの指導及び安全の確保に努めています。	

2 事業の指標										
指標名	単位	22年度			23年度			24年度		
		実績	計画	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率
自主運営校	校	5	4	4	100%	4	4	100%	4	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	16,155	17,292	15,276	16,913	13,178	16,042
特定財源	10,764	12,510	10,037	10,147	7,625	10,688
一般財源	5,391	4,782	5,239	6,766	5,553	5,354
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	18,283	19,361	17,345	18,956	15,221	18,102

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】	22年度は区立小学校全校（20校）で開放を実施しました。直営校15校、自主運営校5校です。開放日数は延べ1987日、利用人数は延べ45,862人です。23年度6月より林町小学校（自主運営校）が放課後全児童向け事業（児童青少年課所管）へ移行しました。	23年度は区立小学校全校（20校）で開放を実施しました。直営校15校、自主運営校4校です。開放日数は延べ1,835日、利用人数は延べ38,977人です。6月に林町小学校（自主運営校）が、10月に駕籠町小学校（直営校）が放課後全児童向け事業（児童青少年課所管）へ移行しました。	24年度は区立小学校17校でともひろば（校庭開放）を実施しました。直営校13校、自主運営校4校です。開放日数は延べ1,541日、利用人数は延べ35,383人です。4月に明化小学校（直営校）が放課後全児童向け事業（児童青少年課所管）へ移行しました。
【課題】	平成24年度より、放課後の児童居場所づくり対策として、文京区で実施している放課後対策事業を統合する「文京区放課後全児童向け事業」が実施されるため、児童青少年課と連携を図り円滑な移行を推進する必要があります。（23年度モデル校2校）全ての学校について、安定的に指導員を確保する必要があります。	児童青少年課と連携を図り、「文京区放課後全児童向け事業」への円滑な移行を推進する必要があります。24年度は4月に明化小学校（直営校）が移行し、年度内にもう1校移行する予定です。	地域の全ての子どもたちの安全な遊び場を確保するための受け入れの方策についての検討が必要です。また、こどもに関する庁内組織の一元化を図り、「ともひろば」から「放課後全児童向け事業」への移行に係る課題も含めた検討が必要です。さらに、児童や保護者の意向やニーズを踏まえ、ともひろば運営に携わる関係者のより一層緊密な連携、協力体制の構築を検討する必要があります。
指標達成度	23年度	24年度	25年度
	B	A	A

5 1.事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2.区民移画の状況
①
②4校において、地域住民による自主運営を実施しています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 「文京区放課後全児童向け事業」に整理統合される事業のため、新たな自主運営委員会化は実施せず、事業を進めていきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 放課後全児童向け事業へ移行したことによる減 △768千円 会議に伴うお茶代の増 3千円 実績に伴う保険料の減 58千円
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.2人＋非常勤職員1人×0.1人 計0.3人 ④ 現状維持の理由 現行の事業は安定的に運営されています。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	10	事業名	スポーツ交流ひろば（スポーツ開放）の運営委員会化の推進
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ振興
個別計画	アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課	
目的	区立小中学校を活用し、区民にスポーツの場を提供するスポーツ交流ひろばについて、地域の実情に沿った柔軟な運営を行うため、運営委員会による運営を推進します。		
手段	区立学校の校庭・体育館・プールをスポーツの場として区民に開放しています。開放時には、指導員を配置し、実技指導及び利用者の安全確保に努めています。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
運営委員会 (自主運営校)	校	10	10	10	100%	10	10	100%	11

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	13,169	14,225	12,695	13,676	13,071	13,535
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	13,169	14,225	12,695	13,676	13,071	13,535
所要人員 B	0.70	0.70	0.70	0.50	0.50	0.50
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	4,964	4,827	4,827	3,405	3,405	3,434
総経費 E=A+D	18,133	19,052	17,522	17,081	16,475	16,969

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 22年度は区立小・中学校18校で開放を実施しました。直営校8校、自主運営校10校です。開放日数は延べ1513日、利用人数は延べ32,396人です。 また、夏季休業期間を利用して、2校でプール一般開放を実施しました。開放日数は、延べ23日、利用人数は延べ1,810人です。なお、プール団体開放は、8団体で実施され、参加者は1,158人でした。	<b>【成果】</b> 23年度は区立小・中学校18校で開放を実施しました。直営校8校、自主運営校10校です。開放日数は延べ1,427日、利用人数は延べ30,542人です。 また、夏季休業期間中に2校でプール一般開放を実施しました。開放日数は、延べ12日、利用人数は延べ1,240人です。プール団体開放は6団体で実施され、参加者は750人です。	<b>【成果】</b> 24年度は区立小・中学校18校で開放を実施しました。直営校8校、自主運営校10校です。開放日数は延べ1,532日、利用人数は延べ33,468人です。 また、夏季休業期間中に2校でプール一般開放を実施しました。開放日数は、延べ12日、利用人数は延べ984人です。プール団体開放は6団体で実施され、参加者は1,078人です。	
<b>【課題】</b> 開放校及び種目の拡大について検討する必要があります。 学校・運営委員会との連絡・調整を円滑に行う必要があります。 地域住民等による自主運営化を推進し、区民との協働によるスポーツ事業を展開する必要があります。また、安定的に事業を運営するため、新たな指導員の確保が必要です。	<b>【課題】</b> 開放校及び種目の拡大について検討する必要があります。 学校・運営委員会との連絡・調整を円滑に行う必要があります。 安定的に事業を運営するため、新たな指導員の確保が必要です。	<b>【課題】</b> 運営委員会の適正な運営のため、連絡会を開催し、運営方法の説明や状況の確認を継続的にを行います。 また直営校を運営委員会へ転換させていくため、地域の実情等を踏まえて、円滑な委員会化の推進を図るための、具体的な検討をしていきます。	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	A	A

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2 区民参画の状況	
スポーツ交流ひろば10校、プール開放2校で地域住民による自主運営を実施しています。指導員の高齢化が進んでいますが、新しく運営に参加する人が見つからない状況です。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 学校・運営委員会との連絡調整を円滑に行い、安定的な事業の運営を図ります。 ② 予算の増減内訳 職員手当・需用費の削減等による減（△141千円）
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員2人×0.2+非常勤職員1人×0.1人 計0.5人
25年5月末	現状維持	④ 現状維持の理由 健康維持や定期的なスポーツの場であり、利用者の実施要望も高い。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	11	事業名	スポーツ団体等協働事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ振興
個別計画	アカデミー推進計画		
	所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内に拠点を持つプロスポーツ等団体や地域のスポーツ団体等との連携・協力体制を構築し、区民がより一層レベルの高いスポーツを身近に観戦できる機会を提供し、スポーツに関心が持てるようにしていきます。</li> <li>プロスポーツ等団体をはじめ、学校や地域のクラブチームなどとのふれあいの場を設けて、身近に接することができる環境をつくります。</li> </ul>		
手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>参画団体がおもつスポーツのノウハウやネットワークを活用し、専門的な知識を収集することに役立てます。</li> <li>相互協力協定を締結している団体等と協力して、事業を実施します。</li> </ul>		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
講習会等	回	0	1	1	100%	1	1	100%	1
教室	回	1	1	2	200%	1	2	200%	1
観るスポーツ	回	1	1	3	300%	1	1	100%	1

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	200	684	263	300	127	300
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	200	684	263	300	127	300
所要人員 B	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	709	690	690	681	681	687
総経費 E=A+D	909	1,374	953	981	808	987

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッカー教室では、レベルの高い練習方法を体験し、技術の習得に役立てました。</li> <li>読売巨人軍の区民感謝デーは、親子での野球観戦とグラウンドでのイベントゲームにより、スポーツを楽しめる機会を提供しました。</li> </ul>	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>23年度は、6事業を実施し、22年度の3倍の実績を残しました。</li> <li>元日本代表サッカー選手を講師に迎えた少年少女サッカー教室や読売巨人軍区民感謝デーをはじめ、セミナー、パブリックビューイングなど多様な事業を展開しました。</li> </ul>
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ団体等とのスケジュール調整を早期から行い、計画的に実施する必要があります。</li> <li>スポーツ団体等との連携・協力により、スポーツ選手等とふれあえる事業の実施をさらに検討していきます。</li> <li>教育関係機関等との連携・強力体制を整備し、大学や地元のクラブチームの試合等の情報を収集し、広く区民に情報提供していく仕組みを検討していきます。</li> </ul>	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ団体等との連携・協力により、スポーツ選手等とふれあえる事業の実施をさらに検討していきます。</li> <li>教育関係機関等との連携・協力体制を整備し、大学や地元のクラブチームとの事業を検討していきます。</li> </ul>
指標達成度		23年度	24年度
		A	A

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び 2 区民参画の状況

①22年度から継続して実施している読売巨人軍区民感謝デーでは、東京ドームの人工芝グラウンドに降りて練習見学をしたり、アフターゲームイベントでティーボール等をしたりと普段の試合観戦では体験できないことができると好評をいただいております。

②平成24年度は、読売巨人軍区民感謝デーでは、スポーツ推進委員、少年サッカー交流事業では、東京大学運動会ア式蹴球部との協力にて事業を実施しました。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	スポーツ団体等との連絡・調整を強化し、多様な事業を実施します。 ② 予算の増減内訳 増減なし
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 1人×0.1 計0.1人
25年5月末	現状維持	④ 現状維持の理由 著名なスポーツ団体、施設、大学があり、恵まれた環境を活かすことができます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	12	事業名	旧第五中学校体育館の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ施設
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課	
目的	旧文京区立第五中学校体育館の現有施設を継承し、区民のための区内3番目のスポーツ施設として開館するのにあたり、リニューアルに向けた整備を行います。		
手段	改修工事を行い整備するとともに、24年4月以降の管理運営を指定管理で行なうための選定準備等を行います。 また、地域住民団体等とも適宜協議検討を行い、開館に向けて準備を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
改修工事・開館準備の進捗度	%		100	100	100%				
指定管理者選定の進捗度	%		100	100	100%				

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		24,546	18,923			
特定財源		0	0			
一般財源		24,546	18,923			
所要人員 B		0.50	0.50			
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	3,448	3,448	0	0	0
総経費 E=A+D		27,994	22,371			

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
【成果】	【成果】 平成23年7月末より改修工事を行い、平成24年2月末に竣工しました。管理運営を行う指定管理者を選定し（応募6団体）、24年4月1日に開館しました。	【成果】	
【課題】	【課題】 今後は、スポーツ施設としての周知及び利用者数の増加、施設設置の目的に沿った運営を行うよう指定管理者との連絡調整を図っていきます。また、避難所としての施設でもあるため、防災課や近隣町会、指定管理者と調整が必要となります。	【課題】	
指標達成度		23年度	24年度
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
24年6月末	終了確定	③ 所要人員の考え方
25年5月末		④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	13	事業名	(仮称) 新総合体育館の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ振興
個別計画	文京総合体育館建設基本構想		
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課	
目的	老朽化した総合体育館を建て替えることにより、より多くの区民がスポーツに親しむことができ、身近な場所で健康づくり・体力づくりができるようにします。		
手段	区民参画により策定した総合体育館建設基本構想に基づき、設計を行い総合体育館を建て替えます。なお、設計業者は公募型プロポーサルにより選定しました。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度実績	23年度			24年度			25年度
			計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
建設工事進捗度	%		30	13	44%	100	100	100%	
初度調弁整備の進捗度	%		55	35	64%	100	100	100%	
開館の準備業務の進捗度	%		10	10	100%	90	90	100%	100

3 コスト						
単位 千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	81,492	174	152	51,129	26,642	2,750
特定財源	0	0	23,873	0	0	280
一般財源	81,492	174	-23,721	51,129	26,642	2,470
所要人員 B	1.03	0.50	0.50	0.70	0.60	0.60
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	7,269	3,448	3,448	4,766	4,085	4,121
総経費 E=A+D	88,761	3,622	3,600	55,895	30,727	6,871

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>区民説明会、紛争予防条例関連建設工事説明会、公聴会や関係団体への説明等を実施しました。</li> <li>新総合体育館建設予定地（四中跡地）の埋蔵文化財発掘調査を終了しました。</li> <li>基本・実施設計を策定しました。</li> </ul>	【成果】	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設工事が滞りなく行われるよう、関係各課・工事業者等との打合せを定期的に行いました。</li> <li>文京区体育協会やスポーツ推進委員、町会等関係団体に対して、定期的に設計内容や工事の進捗状況等の報告を行いました。</li> </ul>
【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>建設工事が滞りなく行われるよう、関係各課・工事業者等との打合せを定期的に行う必要があります。</li> <li>初度調弁整備など、開館にむけての準備を進める必要があります。</li> <li>区民の要望も取り入れた運営を目指し、指定管理者と十分な協議を行うとともに、文京区体育協会や体育指導委員など関係団体との連携をとっていく必要があります。</li> </ul>	【課題】	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、初度調弁整備など、開館にむけての準備を進める必要があります。</li> <li>区民の要望を取り入れた運営を目指し、引き続き、指定管理者と十分な協議を行うとともに、文京区体育協会や文京区スポーツ推進委員など関係団体と連絡をとっていく必要があります。</li> </ul>
【成果】		【成果】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>関係各課・工事関係者等と定期的な打合せを行い、予定どおり3月21日に建物の引渡を行いました。</li> <li>4月の開館に向け、指定管理者等と施設運営について打ち合わせを行いました。</li> <li>施設利用や運営に関する連携について、各種スポーツ団体等との打合せを行いました。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>4月14日に実施を予定している開館記念式典及びオープニングイベントについて最終準備をします。</li> <li>開館後は区民や関係団体等から寄せられる様々な意見をもとに、より一層利用しやすい施設運営を検討していく必要があります。</li> </ul>	
【課題】		【課題】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、初度調弁整備など、開館にむけての準備を進める必要があります。</li> <li>区民の要望も取り入れた運営を目指し、指定管理者と十分な協議を行うとともに、文京区体育協会や文京区スポーツ推進委員など関係団体との連携をとっていく必要があります。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、初度調弁整備など、開館にむけての準備を進める必要があります。</li> <li>区民の要望を取り入れた運営を目指し、引き続き、指定管理者と十分な協議を行うとともに、文京区体育協会や文京区スポーツ推進委員など関係団体と連絡をとっていく必要があります。</li> </ul>	
指標達成度		23年度	24年度
		A	B
			A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
②オープニングイベントで文京区スポーツ推進委員会、文京区体育協会加盟団体（卓球連盟、アーチェリー協会）に依頼し体験教室を実施する予定です。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	平成25年3月21日に竣工引渡、4月14日（日）オープニングイベント実施、翌日より通常利用を目指して物品・備品の整理、運営の調整を行っていきます。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 一般需用費の減△12,420千円 印刷製本費の増90千円 一般委託費の増575千円 備品購入費の減△36,405千円 食糧費の増3千円 旅費の減△3千円
25年5月末	終了確定	③ 所要人員の考え方 常勤0.3+0.1+0.1=0.5人 非常勤0.1人 ④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	14	事業名	2013年東京国体開催準備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ振興
個別計画			
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課	
目的	地域スポーツの振興と区民の健康増進、体力向上を図り、併せて地域の活性化を目指します。		
手段	23年度に設立した文京区実行委員会を中心にスポーツ祭東京2013文京区競技の開催に向けて準備を進めています。本年度は各競技本番を想定したリハーサル大会を実施し、本大会成功のための課題や問題点を検証します。また、様々なイベントにてPR活動を行い、多くの区民の来場を促していきます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
小石川運動場グラウンド改修工事進捗度	%	20	100	100	100%				
リハーサル大会開催準備進捗度	%	10	40	40	100%	100	100	100%	
国民体育大会開催準備進捗度	%	15	35	35	100%	60	50	83%	100

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	151,129	803,593	805,229	32,115	28,208	110,344
特定財源	0	326,780	326,780	14,330	13,193	54,157
一般財源	151,129	476,813	478,449	17,785	15,015	56,187
所要人員 B	0.33	1.70	1.70	2.40	2.40	4.80
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,305	11,722	11,722	16,342	16,342	32,966
総経費 E=A+D	153,434	815,315	816,951	48,457	44,550	143,310

4 評価				
事業の成果及び課題				
23年度	24年度	25年度		
<b>【成果】</b> ・小石川運動場グラウンド改修工事について、工事説明会や関係団体への説明等を実施しました。 ・社会資本整備総合交付金の申請を行いました。 ・平成22年12月に小石川運動場改修工事を着工しました。 ・工事関係者と定期的に打ち合わせを行っています。	<b>【成果】</b> ・小石川運動場グラウンド改修工事が予定通り竣工、備品・物品搬入やグラウンド運営など、オープンに向け最終的な準備をしています。 ・スポーツ祭東京2013開催に向け、21の団体により文京区実行委員会を設立し、開催に向けた準備を進めています。	<b>【成果】</b> ・小石川運動場のオープニングイベントの少年少女サッカー教室は多くの子どもたちが参加し盛況のうちに終わり、グラウンドや会議室利用率も順調にのびています。 ・サッカー、レスリングともに国体リハーサル大会を開催し、本番に向けた課題を検証し準備を進めています。		
<b>【課題】</b> ・小石川運動場オープニングイベントや予約システムの準備など、オープンに向けての準備を進める必要があります。 ・国体実施に向けて、実行委員会を設置する等の準備を進めるとともに、文京区体育協会や体育指導委員等の関係団体と連携をとっていく必要があります。	<b>【課題】</b> ・本年度開催のリハーサル大会、及び来年度開催の本番に向けて、文京区実行委員会を中心に、関係団体と連携をとりながら、引き続き準備を進めていく必要があります。 ・区では馴染みのないレスリング競技の会場設置も含め、どのように運営・周知していくか。また、国体全体の効率的なPR方法等について協議・検討していく必要があります。	<b>【課題】</b> ・リハーサル大会の実施結果を踏まえ、来場時の公共交通機関の利用推進など、過去の開催と比較検討し異なる部分は周知を徹底する必要があります。 ・区内では様々な全国大会が数多く開催されているため、国体の良さを効果的にPRして、多くの皆さまに来場いただく工夫をする必要があります。		
指標達成度		23年度	24年度	25年度
		A	A	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	開催年となり、会場設営等ハード面からPRなどソフト面まで綿密な準備を進め、充実したイベントとなるよう運営していく。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 補助及び交付金の増81,535千円 旅費の減△454千円 一般需用費の減△1,931千円 一般委託費の減△400千円
25年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 常勤3.4人 非常勤1.4人 ④ 現状維持の理由



# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	15	事業名	スポーツ指導者の育成と活用
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		スポーツ振興
個別計画	アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	スポーツ振興課	
目的	スポーツ推進委員・スポーツリーダー及び区内スポーツ団体の指導者に対し、研修会や講習会を実施し、専門技術や指導力の強化を図っていきます。区内のスポーツクラブ、地域住民のスポーツ団体等に技術向上のための支援を行い、地域スポーツの振興を図ります。		
手段	スポーツ指導者の資質向上のため、専門技術・メンタルトレーニング・指導方法・安全管理等の講習会を開催します。スポーツ団体等に実技指導員（スポーツ推進委員またはスポーツリーダー）を派遣します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
指導者講習会	回	1	2	2	100%	2	2	100%	2
地域派遣	単位	139	190	116	61%	200	106	53%	210

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	557	682	479	667	435	727
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	557	682	479	667	435	727
所要人員 B	0.10	0.10	0.10	0.20	0.20	0.20
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	709	690	690	1,362	1,362	1,374
総経費 E=A+D	1,266	1,372	1,169	2,029	1,797	2,101

4 評価				
事業の成果及び課題				
	23年度	24年度	25年度	
【成果】	22年度は、体育指導委員の意見・要望を取り入れ、キネシオテーピング講習会を実施し59名の参加がありました。46団体（12種目）から、体育指導委員63単位、スポーツリーダー76単位、計139単位の派遣依頼がありました。	23年度は、スポーツ推進委員の意見・要望を取り入れ、上級救命講習会及び障害者スポーツをテーマにした講習会を実施しました。参加者数は延べ53名です。延べ37団体（10種目）から、スポーツ推進委員64単位、スポーツリーダー52単位、計116単位の派遣依頼がありました。	24年度は障害者スポーツをテーマに指導者講習会を実施しました。参加者は延べ53名です。加えて、障害者スポーツへの理解を深めるために、オリンピック招致と運動させ、パラリンピック競技を体験する事業も行いました。延べ28団体（7種目）からスポーツ推進委員37単位、スポーツリーダー69単位、計106単位の派遣依頼がありました。また、スポーツ推進委員の任期満了に伴う、改選が行われ、その結果20・30代の委員も増えました。	
【課題】	指導者も年齢層が高くなり、若手の指導者育成や地域におけるスポーツの人的資源の掘り起こしが必要です。指導者派遣は、依頼してくる団体が毎年決まっているため、多くの団体に活用していただくよう、積極的な広報が必要です。	指導者の資質向上と、若手の指導者育成が必要です。指導者派遣は依頼してくる団体や種目が固定化しており、制度を広く周知し、利用団体を増やす必要があります。	指導者が固定化・高齢化しているため、後継の育成と種目の充実を図ることが必要です。また、指導者派遣制度の利用も固定化されており、今まで利用していなかった団体等へもちろし等で広く周知し、利用を推進することにより、スポーツへの技術向上や理解を深めていくことが必要です。	
指標達成度		23年度	24年度	25年度
		B	B	B

5 1.事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2.区民参画の状況	
指導者講習会の企画・運営はスポーツ推進委員と協力して実施しています。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 指導者講習会は前年度に引き続き障害者スポーツをテーマに開催します。指導者派遣の活用を図るため、広く周知します。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 地域派遣申請の増加見込に伴う、報償費の増（60千円）
25年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.1+非常勤職員1人×0.1人 計0.2人
		④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	16	事業名	映像資料の調査・保存事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	【小項目】		
	歴史・文化情報		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	8mmフィルムによって撮影された文京区の様子を、フィルムの劣化と散逸する前にデジタル化して保存します。保存された映像は、行政資料として活用するほか、上映会等で多くの区民に見てもらえる機会を設けます。		
手段	区報や区HP、上映会会場において、8mmフィルムの所有者に対し資料提供を呼びかけます。提供された資料はデジタル化（DVD、DV-CAM）化して保存します。また、提供者に対しても借用したフィルム返却時にDVDをお渡しします。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
デジタル化資料数	件	89	40	44	110%	40	15	38%	40

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	6,927	7,188	7,188	7,188	7,188	650
特定財源	6,927	7,188	7,188	7,188	7,188	0
一般財源	0	0	0	0	0	650
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	9,055	9,257	9,257	9,231	9,231	2,710

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 平成22年度は委託期間が7月1日からの9カ月と短かったにもかかわらず、NPO法人映画保存協会がこれまでの活動の中で培ったネットワークにより、予定数を大幅に超える資料の保存ができました。 また、平成23年3月6日（日）に駒込地域活動センターで上映会を開催した際には、予定入場者数80名のところ150名もの来場者があり、区民の関心の高さがわかりました。	<b>【成果】</b> これまでの調査活動に加え、上映会の際にも所蔵資料の情報提供がされた。そのうち区に関連するもの、資料価値の高いもの、年代が古いもの等に重点を置き、44本（当初予定40本）のフィルムデジタル化した。 デジタル化したフィルムを中心に、その内容にゆかりのある3つの地域にて上映会を開催し、合計で200名を超える来場者があり、関心の高さを伺えた。	<b>【成果】</b> 過去3年間の調査収集により、資料に資するフィルムの保存は概ね終了した。上映会については3回開催し、該当地域にお住まいの方はもちろん、リピーターやチラシ・区報等により新たな来場者を得ました。 一緒に、往時の区の姿・風俗に高い関心を示していました。	
<b>【課題】</b> NPO法人映画保存協会が文京区千駄木にある法人のため、根津千駄木周辺の所有者情報には強いが、それ以外の所有者の掘り起こしが重要と考えます。また、これまでにデジタル化しきれなかった資料を継続して保存していくとともに、上映会も区内全域で行う必要があります。	<b>【課題】</b> 調査対象となるフィルムの概数の、デジタル化する本数、上映会の開催回数などの目標の達成値の設定と、デジタル化後の効果的な活用方法の検討が必要である。	<b>【課題】</b> 本区の地域文化資産として後世へ伝える資料に資するフィルムは、概ね掘り起こしが完了しました。今後、これまでに蓄積された資料を広くかつ有効的に利用されるよう、その公開方法の構築、資料の加工や映像にまつわる情報を添えた映像ライブラリーを開設するなど、広く活用する必要があります。	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	A	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	図書館等での貸出、有償頒布等、資料としての活用の要望があります。
②	区内NPO団体に事業運営を委託しています。 ・上映会への来場のほか、自主的なフィルムの提供を受けています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 貴重な資料の後世への継承及び新たな歴史の発見に資するため、上映会の他、視聴覚ライブラリーでの貸出、区HP・CATVなどを通じ、情報発信を図ります。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 委託費（緊急雇用創出事業）の減 △6,538千円 【内訳】 委託料（緊急雇用創出事業）の皆減 △7,188千円 委託費の皆増 650千円
25年5月末	改善・見直し	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.3 計0.3人
		④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	17	事業名	(仮称) 森鷗外記念館の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	【小項目】		歴史・文化情報
	所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課
目的	文京区にゆかりの深い文豪森鷗外の作品や業績を広く区民等に伝え、文学のまちとして区の魅力及び情報を発信することにより、森鷗外の魅力を再発見するとともに、多様な人々が集う、新たな交流空間の創出と文化の振興に寄与するため、森鷗外記念館を開館し運営します。		
手段	「(仮称) 森鷗外記念館」整備検討委員会の報告に基づき、記念館の建設を進めるとともに、同館管理運営検討委員会の検討結果報告により、指定管理者制度による運営の準備をすすめています。また、平成21年4月に「森鷗外基金」を創設し、広く寄附を募っています。この基金は目的を建設から運用に変更し、記念館開館以降も継続します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度 実績	23年度			24年度			25年度
			計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
建設工事進捗度	%	13	100	75	75%		25		
展示工事進捗度	%	1	10	11	110%	100	100	100%	

3 コスト						
単位 千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	393,448	445,026	238,527	281,085	283,400	86,726
特定財源	287,408	101,600	109,016	151,516	159,011	1,512
一般財源	106,040	343,426	129,511	129,569	124,389	85,214
所要人員 B	2.70	3.20	2.00	1.30	1.30	0.80
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	19,148	22,064	13,790	8,852	8,852	5,494
総経費 E=A+D	412,596	467,090	252,317	289,937	292,252	92,220

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 建設及び展示工事について、平成22年6月に設計を完了し、解体工事を経て、同年12月に建設工事、23年1月に展示工事に着手しました。	<b>【成果】</b> ①森鷗外記念館を区内外に強くPRするとともに、森鷗外が永年暮らした文京区の魅力を全国に向けて発信するため、平成23年12月より、森鷗外生誕150年記念事業を開始しました。 ②建設工事は東日本大震災と電力使用制限令等の影響により、平成24年3月20日までの工期を5月31日まで延長しました。	<b>【成果】</b> ①森鷗外生誕150年記念事業は平成24年12月終了し、3都市との交流も深まりました。 ②森鷗外記念館は、建設工事が5月、展示工事も10月に完了し、11月1日に開館となりました。 ③入館者は2万人を超え、利用者も順調に推移しています。森鷗外と鷗外の暮らした文京区の魅力を多くの人に発信できました。	
<b>【課題】</b> ①鷗外及び記念館を広く周知するため、鷗外生誕150年にあたる平成24年を通して、他課等と連携し、多彩な記念事業を行う必要があります。 ②開館後の展示や資料調査に役立つ、所蔵資料のデータベースを整備する必要があります。 ③開館後、たえず多くの人に繰り返し来館いただける記念館であるために、長期的な展示や行事企画等の準備を進める必要があります。	<b>【課題】</b> ①森鷗外生誕150年を迎え、これを好機として、鷗外ゆかりの「津和野」「小倉」「ベルリン」との連携を深める必要があります。 ②開館に向けて、整備される所蔵資料データベースを常時、更新する必要があります。 ③開館後、来館者要望を適確に把握し、運営に活かす必要があります。	<b>【課題】</b> ① 多様な企画を実施し、現代に生きる森鷗外の知恵を更に多くの人に発信する必要があります。 ② 日常的な資料収集と整理にも意を注ぎ、将来にむけてより充実した記念館となる必要があります。 ③ 利用者の満足度の高い施設運営を心がける必要があります。	
<b>指標達成度</b>			
	23年度	24年度	25年度
	A	B	A

5 1)事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2)区民券面の状況	
①鷗外生誕150年にふさわしい大事業に踏み切った文京区およびそれを支持する区民の皆様に敬意を表します。新しい記念館の完成を心待ちにしています。(基金寄附者からの意見)・以前の図書館の時にかつて来たことがあり、新しくなったと聞いて来てみました。今の技術(タッチパネルなど)ふんだんに活用している楽しみながら観させていただきました。また来たいと思います。鷗外以外にも、文京区にゆかりのある文人の展示があると良い。(来館者の意見)②150年記念事業実行委員会への町会、商店会、観光協会、ミュージアムネットからの参加。地元町会主催の三元インターネット交流の実施。商店会の関連事業の実施。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	拡充	<b>① 事業の展開内容</b> 建設工事は24年5月31日、展示工事は10月1日に完了し、11月1日に開館しました。今後、引き続きホームページ等でPRを行うとともに、特別展や関連講演会などを実施し、観覧者数の増加を図っていきます。 <b>② 予算の増減内訳</b>
24年6月末	拡充	<b>③ 所要人員の考え方</b> $0.5人 + 1人 \times 30\% = 0.8人$
25年5月末	現状維持	<b>④ 現状維持の理由</b> 森鷗外記念館が開館し経常的運営になりました。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	18	事業名	アウトリーチ事業の実施
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	身近な施設で優れた芸術文化に直接触れ、参加する機会を提供することにより、区民の芸術文化に対する理解や関心を深めます。		
手段	小・中学校や地域の文化施設など、身近な施設に演奏家等が出向き、ミニコンサートを開催します。コンサートの中で参加者が演奏に参加するだけでなく、ワークショップなどの手法を活用して参加者が芸術文化に触れる機会を設けます。		

2 事業の指標																	
指標名	単位	22年度				23年度				24年度				25年度			
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率			
アウトリーチ事業（小・中学校）開催回数	回	4	4	4	100%	4	4	100%	4	4	100%	4	4	100%			
アウトリーチ事業（文化施設等）開催回数	回	0	4	4	100%	4	4	100%	4	4	100%	4	4	100%			

3 コスト								
単位：千円	22年度		23年度		24年度		25年度	
	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,575	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	3,335	
特定財源	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源	1,575	2,150	2,150	2,150	2,150	2,150	3,335	
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,809	6,868	
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,021	1,030	
総経費 E=A+D	2,639	3,184	3,184	3,171	3,171	3,171	4,365	

4 評価					
事業の成果及び課題					
23年度		24年度		25年度	
【成果】	22年度はアウトリーチ事業として、東京フィルハーモニー交響楽団の13人のオーケストラによる「出前コンサート」を区立小学校4校にて実施しました。楽器紹介、オーケストラと歌うなどのプログラムを児童、教員、保護者、地域の方たち1,580人に鑑賞いただきました。（この他に、シビックホール10周年記念のアウトリーチ事業として、指定管理者の自主事業で、ミュージズネットデリバリーコンサートや鼓童交流公演及びワークショップを開催しました。）	【成果】	23年度はアウトリーチ事業として、東京フィル及びシエナの13～14人のオーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など1,243人に鑑賞いただきました。さらに鼓童による交流公演及びワークショップを開催したほか、ミュージズネット加入施設2ヶ所でデリバリーコンサートを実施しました。	【成果】	24年度はアウトリーチ事業として、東京フィル及びシエナの13～14人のオーケストラによる「出前コンサート」を区立小中学校4校にて実施し、児童・生徒など1,237人に鑑賞いただきました。また鼓童による交流公演及びワークショップを開催したほか、ミュージズネット加入施設2ヶ所でコミュニティコンサートを実施しました。
【課題】	中学校での実施がなかったので、中学校向けの日程調整やプログラムを検討する必要があります。22年度に新たに事業協定を結んだシエナ・ウィンド・オーケストラによるアウトリーチ事業を積極的に実施していく必要があります。多くの方に身近な施設で鑑賞していただくよう、会場となる学校や施設のより一層の協力をいただく必要があります。	【課題】	中学校での「出前コンサート」については、開催時期や実施方法など事前調整を学校側と綿密に行う必要があります。また、多くの区民のみならず文京シビックホールで開催する主催公演に足を運んで下さるよう、広報活動の連動性をより高めていく必要があります。	【課題】	小学校・中学校での「出前コンサート」については、児童・生徒だけでなく近隣住民の方々にも周知し鑑賞いただける工夫を高めていく必要があります。また鼓童の交流公演やワークショップについて、実施時期を再度検討し、より効果的な集客をはかっていく必要があります。
指標達成度		23年度	24年度	25年度	
		A	A	A	

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	コミュニティコンサートを行った施設から「来場者に大変喜ばれた」「入館者が増えたなどの効果があった」と好評でした。今後も継続的に開催したいという希望がありました。
②	区内小中学校向けでのアウトリーチ事業においては、児童・生徒の皆さんから「プロの演奏を間近で聴けて良かった」など高い評価をいただきました。近隣住民の皆さんも気軽に鑑賞できる場を継続的に提供し、今後も身近に文化芸術を感じられる工夫を積極的に行っていきます。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 区立小中学校やミュージズネット施設でのアウトリーチ事業、太鼓ワークショップ等を実施します。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 平成24年度2,150千円 平成25年度3,335千円 1,185千円増（ホール事業経費との調整による。）
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 3/12月×2人×30%=0.15人 ④ 現状維持の理由 指定管理者が実施する自主事業においては、独自予算で「音楽器アンサンブル技術の向上クリニック」を行うなど新たなアウトリーチ事業を実施していきます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	19	事業名	シビックホールでの文化芸術振興事業の実施
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	優れた芸術鑑賞事業や区民参加型の事業を実施することにより、区民が文化芸術に触れ、体験できる場を提供します。また、事業を通じて芸術文化の振興を図ります。		
手段	事業協定を結ぶ芸術団体による芸術鑑賞事業や区民参加型事業をシビックホールにおいて実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大ホール事業開催回数	回	3	4	4	100%	4	4	100%	4
小ホール事業開催回数	回	1	2	2	100%	2	2	100%	2
区民参加事業開催回数	回	2	2	2	100%	2	2	100%	2
森鷗外生誕150年記念事業開催回数	回					2	2	100%	

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	6,147	6,851	6,851	15,551	15,551	5,666
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	6,147	6,851	6,851	15,551	15,551	5,666
所要人員 B	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,064	1,034	1,034	1,021	1,021	1,030
総経費 E=A+D	7,211	7,885	7,885	16,572	16,572	6,696

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】	東京フィルハーモニー交響楽団によるクラシックコンサート3回実施し、延べ来場者は4,738人でした。（大ホール） 東京フィルハーモニー交響楽団による子ども向けコンサート1事業2公演を実施、延べ来場者数は562人でした。（小ホール） 区民参加演劇は12人が受講、延べ85回の講習を経て成果を発表、来場者数は369人でした。（小ホール） 区民参加オペラは111人が受講、延べ51日の講習を経て成果を発表、来場者数は1,453人でした。（大ホール）	東京フィルによる公演を3回実施し、延べ来場者は4,934人でした。シエナによる公演は1回実施し、来場者数は1,623人でした。（大ホール） 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサート2事業3公演を実施し、延べ来場者数は685人でした。（小ホール） 区民参加演劇は10人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表、来場者数は369人でした。（小ホール） 区民参加オペラは111人が受講、延べ68回の講習を経て成果を発表、来場者数は1,365人でした。（大ホール）	東京フィルによる公演を3回実施し、来場者は延べ5,042人でした。シエナによる公演は1回実施し、来場者は1,622人でした。海外記念事業「オルフェウス」は1回実施し、来場者は1,370人でした。（大ホール） 東京フィルとシエナによる子ども向けコンサート2事業4回を実施し、来場者は延べ1,374人でした。海外記念事業「鶴外の恋 舞姫エリスの真実」は2回実施し、来場者は延べ497人でした。（小ホール） 区民参加演劇は8人が受講、延べ83回の講習を経て成果を発表、公演は2回実施し来場者は延べ434人でした。（小ホール） 区民参加オペラは108人が受講、延べ70回の講習を経て成果を発表、来場者数は1,392人でした。（大ホール）
【課題】	より多くの方にシビックホールで鑑賞していただけるよう演目やソリストの選定を工夫するとともに、より効果的なPRをすることが必要です。22年度に新たに事業協定を結んだシエナ・ウィンド・オーケストラによる芸術鑑賞事業を積極的に展開する必要があります。	クラシックや伝統芸術をはじめ、高品質の公演を気軽に鑑賞していただけるよう公演企画を工夫するとともに、さまざまな媒体を活用して区内に広報活動を確立していくことが必要です。さらに24年度は森鷗外生誕150年記念事業を区と連携して実施していく必要があります。	ツイッターやフェイスブックといった広報媒体を効果的に使用しながら、幅広い年齢層の方々に足を運んでいただける公演にしていけることが必要です。子ども向け公演については、0歳から親子で楽しめるコンサートをこれまで以上に積極的に取り入れ計画していく必要があります。
指標達成度	A	A	A

5 1 事務事業に関する区民要望・ニーズの状況及び2 区民参画の状況	
①	事業アンケートでは、「安価な価格で良い公演を楽しめた」「文京シビックホールでこの種の公演が行われて嬉しい」「子どもたちが毎年楽しみにしている」といった満足度の高いご意見をいただいています。
②	「区民参加オペラ」「区民参加演劇」では、舞台芸術の専門家による年間を通じた指導により初心者の方でも本格的なオペラや演劇に参加する機会を設けています。応募者数は毎年微増傾向にあります。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	拡充	① 事業の展開内容 東京フィルによるクラシック公演を3回、シエナによる吹奏楽公演を1回、東京フィルとシエナによる子ども向け公演を計4回、区民参加オペラ及び区民参加演劇を実施します。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 森鷗外生誕150年記念事業が終了したため、予算は縮小します。
25年5月末	縮小	③ 所要人員の考え方 $3/12月 \times 2人 \times 30\% = 0.15人$ ④ 現状維持の理由 指定管理者が実施する自主事業においては、独自予算で多種多様な文化芸術振興事業を実施していきます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	20	事業名	文化祭／各種発表会／若手芸術家支援
基本構想上の位置付け	【大項目】	【中項目】	【小項目】
		コミュニティ・産業・文化	文化振興
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	芸術文化と伝統文化を普及・発展・継承し、文化芸術情操の充実を図り、文京区ならではの文化の創造と発展を図ります。		
手段	日頃の練習の成果や、創作活動の成果発表の場を設けるとともに、区民等に対し、質の高い文化・芸術に身近に触れる機会を提供します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度実績	23年度			24年度			25年度計画
			計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	
文化祭等参加者数	人	2,948	3,350	3,241	97%	3,400	3,536	104%	3,450
(内訳)各種大会・つどい参加者	人		2,350	2,550	109%	2,350	2,864	122%	2,400
文化祭出品者	人		1,000	691	69%	1,050	672	64%	1,050

3 コスト						
単位・千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	22,250	23,546	22,768	23,577	23,229	11,447
特定財源	8,113	8,818	7,843	8,930	8,614	1,114
一般財源	14,137	14,728	14,925	14,647	14,615	10,333
所要人員 B	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65	1.65
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	11,702	11,377	11,377	11,235	11,235	11,332
総経費 E=A+D	33,952	34,923	34,145	34,812	34,464	22,779

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】	例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）、俳句大会を開催しました。特徴的なものとしては、秋の文化祭の書道展において、出品数が初めて300点を超えました。日本画展では、若年層の出品がわずかながら増え、その若者が区長賞を取ることができました。	例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）を開催しました。かねてより申し込みが多かった合唱のつどいの募集枠を10団体増やした結果、参加団体が4団体増加し、全体としての微増につながりました。	例年通り、7つのつどい・大会を開催するとともに、秋の文化祭（華道展・茶会・書道展・洋画展・日本画展）を開催しました。主管団体と一層の協働を図り積極的な周知活動を行った結果、参加者・出演者ともに増加に繋がりました。
【課題】	全ての事業を通じて、若年層（～30代）の参加が少なく、区内大学等への呼びかけを強化する必要があります。合唱のつどいは募集の定数を超えたため、抽選を行った結果6団体が出演できませんでした。より多くの団体が参加できるよう、開催時間の見直しなどを行う必要があります。	依然として、若年層（～30代）の参加が少ないため、区内大学等への呼びかけをさらに強化する必要があります。全体的に参加者数の減が目立ったため、効果的な広報を図るとともに、魅力ある事業となるよう各団体と協議をしていくことが必要です。	文化・芸術の普及・継承、新たな文化創造には、安定的な参加者に加え、特に若年層を中心とした新規参加者の確保が必要です。引き続き、区内大学等へより積極的かつ効果的な働きかけを行うほか、周知対象を広げる必要があります。
指標達成度	A	B	A

5 1.事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び2.区民参画の状況	
①	出演者から「シビックホールでの発表は、日頃の練習の励みに繋がっている」等との声が寄せられる一方、一部の主管団体からは、「大会（つどい）に子どもや青少年が参加することは、場も和み事業の活性化に繋がりが非常に良いことだが、（学校・塾等で多忙な為）なかなか続けられる子どもが少ない」との声もある。
②	各種つどい・大会の運営は、区民によって構成される協会や連盟に委託しています。 ・文化祭の運営や作品審査等については、区内で活動するメンバーを中心とする、文京区華道茶道連盟・文京区書道連盟・文京美術会に協賛いただき、区民が主役となれるよう呼びかけを行っています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	各団体との連携を一層強化し、より主体的な事業運営のサポートや効率化を図るとともに、若年層等に対する普及・周知活動を推進していきます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳 非常勤報酬4049千円の減、時間外勤務手当1146千円の減、共済費（非常勤職員）1278千円の減、委託料（緊急雇用対策）5738千円の減 第200回シビックコンサートの報償費25千円・食糧費55千円・印刷製本費142千円、一般役務費100千円の増、各種つどい・大会の委託費50千円の増、文化祭
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 4人×0.3 非常勤職員 0.5×3人×(0.1+0.1+0.1) 計1.65人 ④ 現状維持の理由 各種つどい・大会、秋の文化祭も安定した運営であり、本区の文化・芸術の普及・発展、多くの区民の成果発表等に有効であるため。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	21	事業名	観光リーフレット作成助成
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光情報
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	文京区のような観光資源等を紹介するリーフレットを作成して無償配布し、一般観光客の区への誘致を図ります。		
手段	区内観光施設及び名所・旧跡等観光資源を紹介する観光リーフレット及び食に関するリーフレットを、文京区観光協会に補助金を交付して作成し、本区を訪れる方の要求に応えるとともに、文京区観光インフォメーション、シビックセンター展望ラウンジ、東京都観光情報センター及び花の五大まつり等の会場で配布し、観光客の誘致を図ります。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
作成部数	部	85,000	153,000	154,000	101%	153,000	166,000	108%	153,000

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,453	3,395	3,395	3,353	3,353	2,725
特定財源	0	0	0	0	0	
一般財源	1,453	3,395	3,395	3,353	3,353	2,725
所要人員 B	0.20	0.20	0.20	0.20		
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,418	1,379	1,379	1,362	0	0
総経費 E=A+D	2,871	4,774	4,774	4,715	3,353	2,725

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】	文の京観光ガイド「おさんぼくん」の作成に加え、東京商工会議所文京支部が主催して選定した「食の文京ブランド100選」を活用した地図入りリーフレット「おしゅうございまっぷ」の作成を支援しました。また、そのリーフレットを活用した食べ歩きラリーの企画に参画しました。	【成果】	予想を上回る需要により不足が生じたため、23年度は大幅に増刷し、多言語化（英・中・韓）にも対応しました。その結果、まつりのイベントや観光インフォメーション、区内外の公共施設における需要にも充分応えられています。新たに整備した展望ラウンジにも同様の配備を行い、好評を博しています。
【課題】	観光客に対して無償で配布しているリーフレットの内容を、さらに充実させる必要があります。また、多言語によるリーフレットの品揃えを拡充していくことも必要です。	【課題】	24年11月の森鷗外記念館の開館に合わせ「おさんぼくん」の更新を予定するとともに、「おしゅうございまっぷ」についても、24年度に「食の文京 ブランド100選」も改選があり内容も更新される予定です。改めて効果的な周知方法や配布計画についての検討が求められます。
【成果】		各種まつり会場、観光ガイド事業、各種イベントにおいて、求められる場合に限らず、積極的に配付しました。11月に開館した森鷗外記念館でも当館を拠点にまちあるきをする観光客に寄与しました。おしゅうございまっぷのリニューアルに際し、メディアにも取り上げられ、利用希望等の反響がありました。	
【課題】		食のブランド100選の改選に際し、おしゅうございまっぷもリニューアルしたこと、これを広く周知する目的で今秋スタンプラリーを実施する予定です。この事業が成功するよう、機会を逃さずマップを配布していきます。	
<b>指標達成度</b>			
		23年度	24年度
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
文京区観光ガイドから、まちあるきする方を文京区に誘致するために、区内のみならず、隣接区などに各種リーフレットを配付してほしいとの要望があります。	

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	「おさんぼくん」「おしゅうございまっぷ」とも毎年需要を勘案し、作成部数を適切に見直していきます。
24年6月末	改善・見直し	② 予算の増減内訳 作成部数及び種類の見直しによる補助金の減 △628千円
25年5月末	改善・見直し	③ 所要人員の考え方 常勤職員 2人×0.1=0.2人 計0.2人
		④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	22	事業名	フィルムコミッションによる観光振興
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光情報
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	メディアを活用して区の情報発信を行うとともに、ロケ地見学者の集客・誘致など観光振興による地域の活性化を図ります。		
手段	ホームページによる情報提供等により、映画、テレビドラマ、CM等の映像制作者を積極的に誘致し、ロケーション撮影支援を行うことを通じて、区の情報発信を行います。		

2 事業の指標									
指標名	単位	23年度				24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
HPで紹介するロケ候補地数	か所	0	50	20	40%	60	23	38%	70

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		226	79	182	101	72
特定財源		0	0	0	0	0
一般財源		226	79	182	101	72
所要人員 B		0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	690	690	681	681	687
総経費 E=A+D		916	769	863	782	759

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】		<p>【成果】</p> <p>専門家を招いた区内向け・区民向けの勉強会を開催し、ロケ撮影への協力に向けた機運を醸成しました。また、ロケ撮影の候補地として、坂道等を紹介するホームページを作成し、公開しました。制作者からの問い合わせは年間40件を超え、2件について撮影のための具体的な協力を行いました。</p>	<p>【成果】</p> <p>映像製作者からの問い合わせは年間約40件となり、7件について撮影のための具体的な協力を行いました。実際に行われた撮影内容が放送される際にはツイッター等を活用し広報することで、広く情報発信を行いました。区有施設での撮影手続き等の整理に着手しました。</p>
【課題】		<p>【課題】</p> <p>区内でロケ撮影をさらに実現させるため、まずは区有施設等での撮影手続等について整理する必要があります。また、ロケーション撮影候補地のホームページ等による紹介についても、より積極的に実施することが必要です。今後、より幅広くロケ撮影支援を展開するには、一定のマンパワーが必要になります。</p>	<p>【課題】</p> <p>区有施設等での撮影手続き等について引き続き整理を行うとともに、関係部課との調整を行う必要があります。撮影にいたるまでの事前の相談対応、ロケハン随行等、職員や施設に相当の負担がかかることから、より充実した事業内容のためには組織体制の検討が必要となります。</p>
指標達成度		23年度	24年度
			C
			C

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	拡充	<p>① 事業の展開内容</p> <p>区内ロケ撮影候補地に関する情報提供を行うとともに、映像制作者からの様々な問い合わせに対応します。</p>
24年6月末	改善・見直し	<p>② 予算の増減内訳</p> <p>時間外勤務手当の減 △110千円 ※職員給与費に移行</p>
25年5月末	改善・見直し	<p>③ 所要人員の考え方</p> <p>常勤職員 2人×0.1=0.2人 非常勤職員 0.5×1人×0.1=0.05人 計0.25人</p> <p>④ 現状維持の理由</p>



# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	23	事業名	観光拠点の整備
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光資源
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	まちあるきを行う来訪者に対して、旬の情報を迅速・適切に提供するため、区内の観光拠点を整備します。		
手段	観光インフォメーションにおいて、お客さまのニーズに的確に応える情報提供を行ったり、シビックセンター展望ラウンジに映像設備を設置したりして、まちあるきを行う来訪者が立ち寄る可能性がある区内の観光拠点を充実させ、情報発信機能を強化していきます。		

2 事業の指標									
指標名	単位	23年度				24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
観光インフォメーションの相談件数	件	5,567	6,402	5,447	85%	7,362	4,993	68%	8,467
(内訳) 来所相談	件	3,691	4,245	3,838	90%	4,881	3,834	79%	5,614
電話相談	件	1,876	2,157	1,609	75%	2,481	1,159	47%	2,853

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	10,210	10,622	10,385	10,315	10,315	10,554
特定財源	0	0	161	155	156	157
一般財源	10,210	10,622	10,224	10,160	10,159	10,397
所要人員 B	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	2,128	2,069	2,069	2,043	2,043	2,060
総経費 E=A+D	12,338	12,691	12,454	12,358	12,358	12,614

4 評価				
事業の成果及び課題				
23年度	24年度	25年度		
<b>【成果】</b> 観光インフォメーションにおける情報提供に加え、シビックセンター展望ラウンジにおいて観光ポスター掲示やリーフレットの配布を開始しました。地域活動センターとの連携も強化し、地域のお祭りやイベント等の情報共有化にも取り組んでいます。	<b>【成果】</b> 1階の観光インフォメーションは、ポスター・チラシ等のPRが功を奏し、年間27,239人（前年度比3,396人増）の来場者がありました。他所と比較し観光情報が充実しているとの声が寄せられています。また、25階展望ラウンジに新たに映像設備を設置し、観光情報発信拠点として整備しました。区内の観光資源を映像でご案内している外、各種リーフレットも配架し、おさんぼくは年間8,270部の需要がありました。	<b>【成果】</b> 森鷗外関連団体との協定締結に伴い、津和野町と観光資料を相互に配架するなど、観光客誘致の手段を広げました。また25階展望ラウンジの資料配架やポスター掲示についても、観光客誘致の観点からは保ちつつ、従来より幅広い対象に対応を拡げました。		
<b>【課題】</b> 観光インフォメーションなどの観光拠点について、その場所や提供される情報等についての認知度を一層高めるため、地下鉄駅構内等への紹介リーフレットの設置等、より多くの方に伝える取組を進める必要があります。	<b>【課題】</b> 来訪者の幅広いニーズに応えるため、さらなる観光情報の収集に努める必要があります。また、展望ラウンジの映像機器を効果的に運用するため、観光PR用の映像ソフトのみならず、広報課CATV担当が制作したまち歩きの特集番組を活用するなど、工夫が求められます。	<b>【課題】</b> 区内観光スポットを利用したJR、東京メトロ等のイベントと連携を図ることにより、区の観光スポットをPRする機会を新たに得るなど、より多くの来訪者を取り込む方策を模索する必要があります。		
<b>指標達成度</b>		23年度	24年度	25年度
		A	C	C

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①食に関する問合せが増えており、食の100選の紹介をはじめ、日頃から区内の食に関する情報を入手し提供しよう努めています。また、花まつりの時期には開花状況に関する問合せが非常に多く、現場や事業所管とよく連携して適切な情報提供に努めます。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 観光インフォメーションや展望ラウンジにおいて、観光スポットやイベントの紹介など、引き続き適時適切な情報提供を行っていきます。 ② 予算の増減内訳 時間外勤務手当の減（職員給与費に移行） △25千円 ポスター印刷を行わないことに伴う印刷製本費の減 △42千円
24年6月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤職員 1人×0.2=0.2人 非常勤職員 0.5×1人×0.2=0.1人 計 0.3人
25年5月末	現状維持	④ 現状維持の理由 現状の狭いスペース内で、資料配架を工夫したり、接客・相談業務等を効率よくこなしていくことが求められます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	24	事業名	観光土産品開発支援事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光資源
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	文京区ならではの「食」の魅力（おみやげ等）をまちあるきに付加するとともに、事業の周知活動を通じて、区の知名度向上を図ります。平成25年度以降は、継続して販売を希望する店舗及び当該店舗にて販売する文人銘菓の広報を行うことで、引き続き区の知名度向上及び観光振興を図ります。		
手段	引き続き区ホームページ等を活用しPRを行います。区が催すイベント等の情報を参加店舗に提供し、販売促進につなげます。		

2 取組状況	
22年度	
23年度	区内菓子店へのヒアリング結果等を基に、「文の京ゆかりの文人銘菓」にかかる募集要項を作成し、平成24年2月1日より募集を開始しました。募集にあたっては、ポスター500枚・チラシ3,000枚を印刷し、区設掲示板や区立施設、B-1ぐら等の掲出を行うとともに、ホームページや区報での募集告知を実施しました。また、区商店街連合会、東京商工会議所文京支部、東京和菓子協会本郷支部・小石川支部等を通じた周知活動も行いました。
24年度	募集要項を確認し販売参加希望のあった店舗において、食品販売資格等を確認の上、計17店舗において平成24年10月1日より文人銘菓の販売を実施しました。販売実施にあたって、区内のまちあるき推進による観光振興につなげるため、各店舗をめぐる食べ歩きスタンプラリーを実施することで、森鷗外をはじめとする多くの文学者を育んだまちとしての文京区をPRするとともに、区内観光の魅力を高めました。

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A		720	187	2,653	1,845	0
特定財源		0	0	0	0	0
一般財源		720	187	2,653	1,845	
所要人員 B		0.10	0.10	0.10	0.10	0.05
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	0	690	690	681	681	343
総経費 E=A+D		1,410	877	3,334	2,526	

4 評価			
事業の成果及び課題			
	23年度	24年度	25年度
【成果】		「文の京ゆかりの文人銘菓」の募集要項を作成し、平成24年2月1日から募集を開始しました。ポスター、チラシ等の印刷物の配布に加え、区設掲示板や区報、ホームページなど様々な媒体を活用して、積極的な募集告知を行いました。	参加申し込みのあった17店舗において文人銘菓の販売を実施し、区内経済の活性化につながるとともに、区内外を問わず好評となり、文の京の知名度も向上した。あわせて開催した当該店舗を巡るスタンプラリーでは、計366口の申込があった。
【課題】		区内菓子店に向けて広く情報発信し、多数の応募が寄せられるよう、周知活動に力を入れる必要があります。また、選定後に積極的なPR活動を行うことにより、「文の京ゆかりの文人銘菓」の普及に努める必要があります。	当初単年度事業としていましたが、好評を得たこともあり、希望があった13店舗には平成25年度も継続して販売を行っていただくこととしました。当該販売継続店舗の情報については、引き続きホームページ等を活用した広報を行う必要があります。
達成度			
		A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①
②平成24年度事業に参加・協力いただいた菓子製造業者に対し、継続参加の希望有無を確認しました。その上で参加を希望した業者には文人銘菓の認定を行い、平成25年度以降も継続して店舗で販売を行えるようにしました。

6 今後の方向性		
時点	方向性	内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 当初平成25年3月31日で終了としていた文人銘菓の認定ですが、平成25年4月1日以降も継続して菓子の販売が行えるよう認定更新作業を行います。今後引き続きホームページ等でPRを行うとともに、毎年度末に継続販売希望調査を実施し、参加希望店舗の支援を継続します。
24年6月末	縮小	② 予算の増減内訳 事業終了に伴う皆減
25年5月末	縮小	③ 所要人員の考え方 常勤職員1人×0.05=0.05人 ④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	25	事業名	観光ガイド事業の充実
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	来訪者を温かく迎え、本区を印象付ける魅力の一つとして、区民のおもてなしの心を醸成します。		
手段	区民を中心に観光ガイドを募集し、ガイド技術を十分に育成した後に、来訪者の依頼に応じて、区内観光スポット等を案内する事業を実施します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
観光ガイド派遣人数（延べ人数）	人	—	72	32	44%	144	213	148%	156
観光ガイド事業参加人数	人	—	98	127	130%	376	847	225%	387

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	481	627	372	787	747	651
特定財源	0	0	0	52	22	0
一般財源	481	627	372	735	725	651
所要人員 B	0.10	0.10	0.10	0.10	0.15	0.15
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	709	690	690	681	1,021	1,030
総経費 E=A+D	1,190	1,317	1,062	1,468	1,768	1,681

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度		24年度	
【成果】 22年度はガイドの公募と、養成講座等を通じた知識及びガイド技術の向上に取り組み、一定の成果を上げたものの、予定していた年度中のガイド事業開始には至りませんでした。	【成果】 23年10月から実質的にボランティアガイドの活動が始まりましたが、区報やホームページによる周知等により、各種まつりの際のガイドツアーはいつでも定員を満たしているほか、グループ・個人申込みのツアーも需要が高まっています。	【成果】 森鷗外生誕150年と石川啄木没後100年を記念して、各々ゆかりの地を巡る「鷗外ツアー」と「本郷ツアー」を観光ガイドが企画し実施しました。区報等で募集したところ、定員を大幅に上回る応募があり大変好評でした。25年度に向け、これらの企画の定番化並びにルート未開発地域である関口エリアの検討を行いました。	【成果】 区内観光スポットの魅力を余すところなく紹介できるよう、今後も未開発エリアのルート等、まちあるきルートの開発に努めるとともに、現在ニーズに比して人数不足である観光ガイドを充分に確保するため、養成に注力することが求められます。
【課題】 本年度後半から本格的なガイド事業開始を予定していることから、積極的なPRによる効果的な周知活動を行う必要があります。	【課題】 区内のまち歩きをする観光客の幅広いニーズに応えるため、さらなるボランティアガイドのスキルアップに努めると同時に、第2期生の養成を着実に進め、併せて新たなルート開発も行います。PRについても、引き続き各種メディアを駆使して効果的に行っていきます。	【課題】 区内観光スポットの魅力を余すところなく紹介できるよう、今後も未開発エリアのルート等、まちあるきルートの開発に努めるとともに、現在ニーズに比して人数不足である観光ガイドを充分に確保するため、養成に注力することが求められます。	【課題】 区内観光スポットの魅力を余すところなく紹介できるよう、今後も未開発エリアのルート等、まちあるきルートの開発に努めるとともに、現在ニーズに比して人数不足である観光ガイドを充分に確保するため、養成に注力することが求められます。
指標達成度		23年度	24年度
		B	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①ガイドツアーの参加者から、文京区の観光ガイドの質の高さを評価され、リポーターも増えつつあります。	②区民の観光ボランティアガイド数 13名（第1期生6名、第2期生7名）

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	拡充	観光客の幅広いニーズに応えるべく、未開発エリアでのルート開拓や、観光ガイドの質の向上、需要に充分対応できるだけの人数確保に努めます。
24年6月末	拡充	② 予算の増減内訳 観光ガイド行事保険に加入しないことによる一般役務費の減 1千円 観光ガイド行事保険に加入しないことによる保険料の減 6千円 観光ガイド養成講座を実施しないことに伴う一般委託費の減 82千円
25年5月末	拡充	③ 所要人員の考え方 常勤職員 1人×0.1=0.1人 非常勤職員 0.5×1人×0.1=0.05人 計 0.15人
		④ 現状維持の理由

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	26	事業名	五大まつり等の助成
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		観光
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所 管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	地域の町会・商店会等で組織する各実行委員会が行う「文京花の五大まつり」（さくら、つつじ、あじさい、菊、梅）及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の宣伝・広告及び実施に要する経費の一部を助成することを通じて、地域の発展と活性化及び観光客の誘致を図ります。		
手段	各まつりの宣伝・広告及び実施経費の一部を、町会や商店会等を中心に組織された実行委員会に助成します。		

2 事業の指標										
指標名	単位	22年度		23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画	
来場者数	人	1,782,000	1,857,000	1,704,000	92%	1,912,710	1,614,000	84%	1,970,091	

3 コスト						
単位・千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	10,689	10,730	10,693	11,713	11,672	10,400
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	10,689	10,730	10,693	11,713	11,672	10,400
所要人員 B	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	0.80
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	5,674	5,516	5,516	5,447	5,447	5,494
総経費 E=A+D	16,363	16,246	16,209	17,160	17,119	15,894

4 評価				
事業の成果及び課題				
23年度	24年度	25年度		
<b>【成果】</b> さくら（3～4月）・つつじ（4～5月）・あじさい（6月）・朝顔ほおずき市（7月）・下町（10月）・菊（11月）・梅（2～3月）まつり等を開催しました。 まつりに要する経費の一部を助成するとともに、観光インフォメーションやシビックセンター展望ラウンジ、区報、ホームページ、Bーぐるにより広く周知するなど支援を行い、地域の発展及び活性化に寄与しています。	<b>【成果】</b> PRについては公的媒体以外に民間のメディアにも多数協力し、雑誌等への掲載も増加する一方、近県からの観光客も増えています。 実行委員会発案による被災地支援物品販売など新たな試みも行われ賑わいを見せました。 一方、各会場にて募集するガイドツアーには、毎回区内外から多数の参加者が訪れ好評を博しています。	<b>【成果】</b> 「文京花の五大まつり」及び「文京朝顔・ほおずき市」「根津・千駄木下町まつり」の開催経費の一部助成とともに、ホームページ等を通じた情報発信を積極的に行いました。特に、区民から問い合わせの多い開花状況のお知らせ情報の発信を週2日程こまめに行うことで、各まつりの機運を盛り上げました。		
<b>【課題】</b> 区内外への事業の広報の強化を図るとともに、来訪者の回遊性を高める一層の創意工夫が必要です。	<b>【課題】</b> 各実行委員会の新たな取組等を後方支援し活性化を図るために、引き続き各種メディアを効果的に活用し集客に努める必要があります。その一方で、まつりを担うまちの人々の高齢化が指摘され、今後より多くの中堅層や若い世代を引き込むためにも、まつりの魅力を一層PRしていく必要があります。	<b>【課題】</b> 地域の活性化のために、一層まつりを盛り上げ、また実行委員会の様々な取組を効果的に支援するために、より質の高い広報の手法を検討する必要があります。また、まつりの担い手の高齢化対策としても、若い世代を取り込むPRをしていく必要があります。		
<b>指標達成度</b>		23年度 <b>A</b>	24年度 <b>C</b>	25年度 <b>C</b>

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	花の開花状況、見ごろ、付近の観光名所等に関する問合せが多い。
②	各まつりは実行委員会形式を採用しており、地元区民が企画運営の実施主体です。
③	区内東洋大学の学生が、調査研究等を目的に、下町まつりの運営及びPR、あじさいまつりのイベントへの参加を行っています。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	<b>① 事業の展開内容</b> 観光客の誘致と地域の活性化につながるよう、花の五大まつり、朝顔・ほおずき市、下町まつりの各実行委員会に運営経費の一部を助成して実施しています。
24年6月末	現状維持	<b>② 予算の増減内訳</b> 時間外勤務手当の減 △315千円（内訳：さくらまつり△115千円、朝顔・ほおずき市△83千円、下町まつり△117千円） 森鷗外生誕150年記念事業終了による補助金の減 △998千円 計△1,313千円
		<b>③ 所要人員の考え方</b> 常勤職員 2人×(0.1+0.1)=0.4人 非常勤職員 0.5×2人×(0.2+0.2)=0.4人 計 0.8人
25年5月末	現状維持	<b>④ 現状維持の理由</b> 各まつりは、地域の町会・商店会が連携し組織した実行委員会により主体的に運営されており、区としても引き続き誘客及び地域の活性化につながるよう、PR等の支援を続ける必要があります。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	27	事業名	国際理解推進事業
基本構想上の位置付け	【大項目】	【中項目】	【小項目】
	コミュニティ・産業・文化	交流	交流情報
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	多くの区民が外国と触れ合う機会や経験を持つ今日、区民が国際理解を深め、国際社会の一員として、世界に目を向け、外国人を受け入れる意識を共有していきます。		
手段	大学等と連携し、国際理解に資する講座を開催します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度			24年度			25年度
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
大学連携講座	回	1	1	1	100%	1	1	100%	1

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	237	223	217	202	150	170
特定財源	46	60	22	60	30	60
一般財源	191	163	195	142	120	110
所要人員 B	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25	0.25
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	1,773	1,724	1,724	1,702	1,702	1,717
総経費 E=A+D	2,010	1,947	1,941	1,904	1,852	1,887

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<b>【成果】</b> 大学連携講座は、文京学院大学との連携で「初めての英文メール」を実施、23人の参加があり、英文メールの書き方を通して、国際理解に資するスキルを学びました。	<b>【成果】</b> フェアトレードに関する活動を行っているサークルのある東洋大学と連携し、「一人一人の国際貢献～フェアトレードについて考える～」と題する講座を実施、44人の参加があり、フェアトレードについての理解を深めました。区内団体等にも直接声掛けするなど、きめ細かく事業の周知を図ったため参加率が向上しました。	<b>【成果】</b> 韓国大使館の協力により、「韓国宮廷料理体験～両班文化に触れる～」を実施し、15人の参加があり、両班文化の説明を受け、「チャプチェ」「宮中トッポギ」の宮廷料理を調理し、味わい、韓国文化への理解を深めました。	
<b>【課題】</b> 大学連携講座は、募集に対し、77%の参加率でした。募集方法、内容、日時等見直しつつ参加率をさらに上げるよう努めます。	<b>【課題】</b> 区民の国際理解を深めるため、どのようなテーマを設定し、また、どのように講座を進めるかなどを、引き続き検討します。	<b>【課題】</b> 講座のテーマや委託先などを、区民の国際理解を深めるため、幅広く検討します。	
指標達成度			
	23年度	24年度	25年度
	B	A	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況
①「楽しく学べた。」「韓国に親しみを感じられた。」（参加者アンケートより）

6 今後の方向性		
時点	方向性	① 事業の展開内容
23年6月末	現状維持	引続き同規模で事業を実施し、区民の国際理解の推進に努めます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤1人×10%＋非常勤0.5人×30%=0.25人
		④ 現状維持の理由 国際理解の推進には様々な手法が考えられます。現在の内容、やり方等を見直しながら、より効果が上がるように進めます。

# 平成25年度 事務事業評価表【B様式】

1 事業の概要			
事業番号	28	事業名	海外都市との交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【中項目】
	コミュニティ・産業・文化		交流
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	海外都市とのさまざまな交流を通して、相互の発展と、友好、理解を深めます。		
手段	相互に訪問団の派遣、受け入れを行い、視察、意見交換等を行います。姉妹都市との間で、ホームステイ生徒の派遣、受け入れを行います。		

2 取組状況	
22年度	4月:北京市昌平区国際温泉産業会議出席、昌平区視察（区長、職員、区議会議長） 6月:北京市人民対外友好協会訪問団受け入れ（区長・区議会議長表敬訪問） 6月:北京市昌平区女性代表団受け入れ（区長・区議会議長表敬訪問、男女平等センター視察） 11月:ソウル特別市松坡区へ職員（担当課長、職員）派遣 区長表敬訪問、実務者協議、区内視察 7月:ホームステイ生徒受け入れ（3名）
23年度	7月:ホームステイ生徒派遣（4名） 10月:ザ・リアリティ・カイザー・スチール・バンド 演奏会鑑賞 北京市人民対外友好協会訪問団受け入れ（区長表敬訪問） カイザー・スチール・バンド単科大学教授受け入れ（大学間国際交流調査） 北京市昌平区訪問団受け入れ（区長表敬訪問、意見交換会） 1月:カイザー・スチール・バンド市交流コンサート（ピアノ演奏会）
24年度	4月:北京市浙江省訪問団受け入れ（意見交換会） 5月:カイザー・スチール・バンド市訪問団受け入れ（区長・区議会議長表敬訪問、意見交換会、区内視察） 7月:ホームステイ生徒受け入れ（3名） 8月:日中友好交流都市中学生卓球大会参加（生徒2名、役員2名、事務局1名） 12月:全国人大法制工作委員会訪問団受け入れ（意見交換） 3月:トルコ大使館文化部受け入れ（区長表敬訪問、意見交換）

3 コスト						
単位:千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,894	9,511	1,401	8,941	2,115	10,820
特定財源	200	2,400	400	0	750	4,400
一般財源	1,694	7,111	1,001	8,941	1,365	6,420
所要人員 B	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60	0.60
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	4,255	4,137	4,137	4,085	4,085	4,121
総経費 E=A+D	6,149	13,648	5,538	13,026	6,200	14,941

4 評価			
23年度	事業の成果及び課題		
	【成果】	【成果】	【成果】
	北京市昌平区での温泉会議は、区長らが出席し、会議のみならず、昌平区長はじめ関係者とも会い、今後の交流に向け積極的な意見交換を行いました。 昌平区女性団体を受け入れ、男女平等問題について、視察、意見交換ができました。 21年度のソウル特別市松坡区職員の文京区来訪に続き、22年度は、初めて文京区職員が松坡区を訪ね、区長の親書を渡し、今後の交流に向けたきっかけ作りができました。	昌平区訪問団を受け入れ、教育関係を中心に情報・意見交換を行い、理解を深めました。ホームステイは、受入れ条件の緩和等により7名の応募があり、選考で男女各2名を決定し、姉妹都市に派遣しました。大学間交流調査のため来日したカイザー・スチール・バンド単科大学教授に、東洋大学を紹介しました。カイザー・スチール・バンド市交流コンサートにより、姉妹都市の周知を進めました。	カイザー・スチール・バンド市訪問団を受け入れ、まちづくり、商店街振興などについて、情報・意見交換を行い、区内商店街、区内施設等の視察を行いました。 北京で開催された日中友好交流都市中学生卓球大会に参加し、北京市昌平区の中学生とチームを結成し、友好交流を行いました。
【課題】	【課題】	【課題】	
北京市昌平区は、交流について文書（交流趣意書、覚書等）の締結を希望していますが、区としてはさらに交流を積み重ねていきたいと考えています。 昌平区、松坡区等交流の歴史が浅いところは、今後の交流の進め方、手法などが課題です。 ホームステイの希望者が、この2回（第13、14回）少ないです。	松坡区との連絡が、先方の人事異動等によりスムーズに進まなかったため、今後は、連絡を密にし交流の進め方を考えます。 昌平区とは、交流の実績を増やしていく必要があります。 平成25年に提携25周年を迎える姉妹都市との周年事業を検討します。	松坡区長より、交流の継続、文京区訪問に向けた文書を受け、今後の交流にむけ連絡を密にしています。平成25年6月来日予定の昌平区訪問団との意見交換の中で、今後の交流の進め方についても検討します。同年10月の姉妹都市訪問では、今後の交流のあり方についても検討します。	
達成度			
	23年度	24年度	25年度
	B	B	B

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況	
①	「良い経験になった。海外で仕事をしたい。ドイツのことだけでなく、日本についてもより知ることができた」（ホームステイ参加者アンケートより）
②	ホームステイは男子2名、女子2名が参加。カイザー・スチール・バンド市訪問団受け入れにあたり、英語観光ボランティアが区内史跡を説明。

6 今後の方向性		
時点	方向性	事業の展開内容
23年6月末	現状維持	① 事業の展開内容 提携25年となる姉妹都市を始め、近年交流を開始したアジアの都市と、今後どのような交流を進めていくか検討し、一層の交流を進めます。
24年6月末	現状維持	② 予算の増減内訳
25年5月末	現状維持	③ 所要人員の考え方 常勤1人×50%+非常勤0.5人×20%=0.6人 ④ 現状維持の理由 従来の交流に加え、区民、産業、教育、スポーツなど様々な面より交流を進め、互恵関係を構築していきます。

# 平成25年度 数値事業例（事務事業評価表）

1 事業の概要			
事業番号	29	事業名	外国人参加型交流事業
基本構想上の位置付け	【大項目】		【小項目】
	コミュニティ・産業・文化		外国人の参画
個別計画	文京区アカデミー推進計画		
所管	アカデミー推進部	アカデミー推進課	
目的	交流事業を通して、相互に理解を深め、また、区内に住む外国人が地域社会の一員としての意識を持ち、共に活力ある地域社会を作っていきます。		
手段	町会などの地域で活動する団体と連携し、地域で行われている事業に外国人が参加する機会を提供します。さまざまな国の文化体験、情報紹介、音楽・舞踊演奏などを紹介するフェスティバルを開催します。また、外国人を対象に、区が養成した英語観光ボランティアが、区内の文化、観光施設等を案内します。		

2 事業の指標									
指標名	単位	22年度	23年度		24年度			25年度	
		実績	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	計画
地域活動連携事業	回	1	1	2	200%	1	3	300%	1
国際交流フェスタ	回	1	1	1	100%	1	1	100%	1
英語観光ガイドツアー	回	3	3	2	67%	3	3	100%	3

3 コスト						
単位：千円	22年度	23年度		24年度		25年度
	実績	予算	実績	予算	実績	予算
事業費 A	1,786	2,639	2,095	2,141	1,804	2,070
特定財源	0	0	0	0	0	0
一般財源	1,786	2,639	2,095	2,141	1,804	2,070
所要人員 B	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65	0.65
職員1人給与 C	7,092	6,895	6,895	6,809	6,809	6,868
人件費 D=B×C	4,610	4,482	4,482	4,426	4,426	4,464
総経費 E=A+D	6,396	7,121	6,577	6,567	6,230	6,534

4 評価			
事業の成果及び課題			
23年度	24年度	25年度	
<p><b>【成果】</b> 地域活動連携事業として、神輿かつぎを実施しました。国際交流フェスタは、37団体の参加があり、異文化の体験等を通して多くの交流がもてました。英語観光ガイドツアーを2回実施し、41人が参加し、外国人の文京区への理解を深めることができました。</p>	<p><b>【成果】</b> 地域活動連携事業として、浴衣着付け体験会と、初めて、子供対象の交流事業を実施しました。国際交流フェスタでは、様々な異文化体験を通して、前年度より多くの交流がもてました。英語観光ガイドツアーを2回実施し、30人が参加したほか、ツアーの回数を増やし、インターネットで申込を受ける準備を進めました。</p>	<p><b>【成果】</b> 地域活動連携事業として、こどもまつり参加、日本語交流会、留学生との交流会を実施しました。国際交流フェスタでは、ステージ演奏などに初めての団体も参加し、様々な異文化の体験、交流ができました。英語観光ガイドツアーを3回実施し、また、インターネットでの申し込みを受けられるように整備しました。</p>	
<p><b>【課題】</b> 国際交流フェスタは、アカデミー推進部に係る横断的イベントとしてできないか検討します。また、毎年2月に実施しているが、9月など気候のいい時期に実施できないかとの意見があります。ガイドツアーは区が主催していますが、今後はより細かく、来訪者のさまざまな要望に応えられるツアーが求められています。</p>	<p><b>【課題】</b> 区内にどのような地域活動があるか調べ、連携を進めます。国際交流フェスタでは、日本文化の紹介が多いため、外国文化の紹介の充実を検討します。英語ガイドツアーでは、インターネット申込を開始し、ツアーの回数、内容を充実することが求められます。</p>	<p><b>【課題】</b> 国際交流フェスタでは、新規参加団体の開拓に努め、内容を多様化していきます。英語ガイドツアーでは、ホームページへのアクセス数を増やすよう、リンク先の開拓を進めます。</p>	
指標達成度			
	23年度	24年度	25年度
	A	B	A

5 ①事務事業に関する区民要望・ニーズの変化及び②区民参画の状況

①「楽しかった。素晴らしい。ステージは活気があった。日本文化など興味深い経験ができた。」（国際交流フェスタ参加者アンケートより）

②日本語交流会は、区民の日本語ボランティアにより実施しました。留学生交流会は、区内の東京医科歯科大学に実施を依頼しました。国際交流フェスタは、区民等により組織された実行委員会が企画・運営を行いました。ガイドツアーは、区民ボランティアが英語で外国人をガイドしました。

6 今後の方向性		
時点	方向性	
23年6月末	現状維持	<p>① 事業の展開内容</p> <p>区内団体、大学、ボランティアなどと連携を取りながら、各事業を展開します。</p> <p>② 予算の増減内訳</p>
24年6月末	改善・見直し	<p>③ 所要人員の考え方</p> <p>常勤1人×40%＋非常勤0.5人×50%＝0.65人</p>
25年5月末	現状維持	<p>④ 現状維持の理由</p> <p>予定されている事業数を実施しており、今後は、区民ニーズなども考慮しつつ、より充実した事業を展開します。</p>

